


ものづくりで築く より良い未来

 セントラル硝子

# CSR 報告書 2020

Corporate Social Responsibility Report



# セントラル硝子グループのCSR

セントラル硝子グループのCSRは、企業理念の実現です。

企業理念は、基本理念とその実現に向けて進むべき方向性を具体的に定めた基本方針で構成されており、この理念のもと誠実な企業活動を行うために行動規範を定めています。

2019年10月に、ものづくり企業として、「品質」とその「安全性」を最優先にして取り組むことを徹底するために、「セントラル硝子グループ行動規範」の改定を行い、当社グループの全従業員で、この規範の実践を推進しています。

## 企業理念

### 基本理念

# “ものづくりで築くより良い未来”

セントラル硝子グループは、ものづくりを通じて、真に豊かな社会の実現に貢献します。

### 基本方針

- 独創的な技術により新たな価値を創造します。
- グローバルでの成長を原動力として企業価値の増大を図ります。
- 環境との調和を心掛け、社会との共生に努めます。
- 開拓精神と多様性を尊重し、活力溢れる企業を目指します。

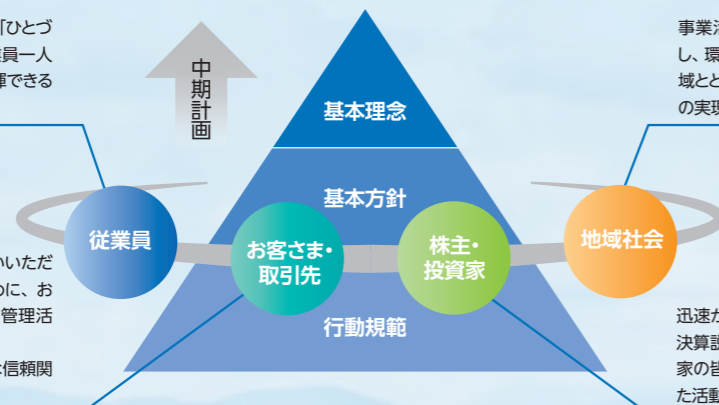
### 行動規範

1. 自らの行動に責任をもち、企業活動において誠実に取り組みます。
2. 品質と安全性を最優先し、お客様のニーズ充足を目指し続けます。
3. 感性を磨き、常に独自の技術とアイデアを追求し続けます。
4. 人々が快適で健やかに暮らせる社会の実現と地球環境の保護に取り組みます。
5. 異なる文化や慣習を積極的に学び、世界の人々に求められる製品づくりに努めます。
6. 一人ひとりの多様性を尊重し、未来に向かって挑戦し続けます。

## セントラル硝子グループのCSR体系

企業発展の基本に「ものづくり」は「ひとづくり」であるということに基づき、従業員一人ひとりの実力・能力を最大限に発揮できる職場づくりを目指しています。

お客様に愛され、安心してお使いいただける製品とサービスを提供するために、お客様の満足度を第一に考えた品質管理活動を行っています。また取引先とは公正、公平で良好な信頼関係の構築に努めています。



セントラル硝子グループは、以下のCSR体系に基づき、あらゆる活動のPDCAサイクルによる継続的な改善活動を通じて、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

事業活動から生じる環境への影響を認識し、環境負荷低減に努め、事業展開する地域とともに成長しながら、持続可能な社会の実現へ貢献していきます。

迅速かつ透明性の高い情報開示を目指し、決算説明会や刊行物を通じて、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを重視した活動に取り組んでいます。

## 中期計画 (2018～2020)

セントラル硝子グループは、2018年度から2020年度までの3年間の対象とした中期計画を策定しました。

この計画は、中期計画期間後の環境変動も見据えてそれらに備えるため、実施の遅れは許容されないものとしてグループをあげて取り組んでいきます。

### 基本方針

事業基盤の強化と独創的な技術を通じて新たな成長へ

- 取捨選択を行い、事業基盤を強化する。
- 社会全体や顧客ニーズを先読みし、付加価値を供給する。
- コンプライアンスを遵守し、グローバル企業として社会の発展に貢献する。

### 基本戦略

#### 1. 中長期的な成長基調への回帰

- 伸ばすべき事業領域へ選択的に経営資源を分配し、リターンを追求
- 事業、組織の特性に応じて構造を見直し、成長投資の原資を確保
- 収益力と効率をアップ、選別投資によりキャッシュフローを改善

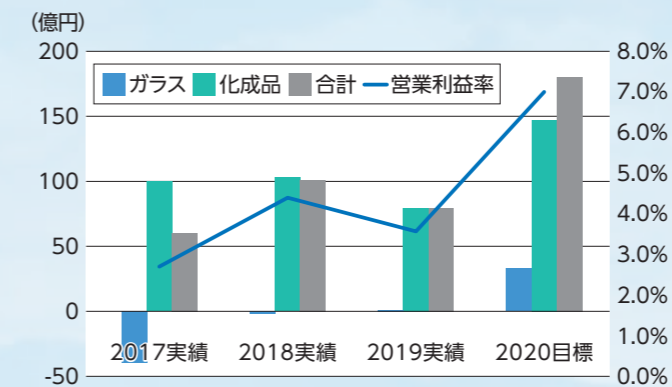
#### 2. 株主還元、投資、財務規律のバランスが取れたキャッシュフローの配分

#### 3. 将来の成長を担保するために研究開発の強化を継続

### 経営目標

	2019実績	中計2020目標
営業利益	79.7億円	180億円
営業利益率	3.6%	7.0%以上
ROE	3.9%	6.0%
株主総還元性向	47.3%	30%以上

### 営業利益・営業利益率推移



## Contents

- セントラル硝子グループのCSR ..... 2
- Top Message ..... 4
- セントラル硝子グループの事業概要 ..... 6
- セントラル硝子グループの製品紹介 ..... 8
- 特集 セントラル硝子の社会課題への取り組み ..... 10
- コーポレート・ガバナンス ..... 12
- 環境・安全への取り組み ..... 16
- 品質向上への取り組み ..... 23
- 従業員とのかかわり ..... 26
- 社会とのかかわり ..... 30
- 各工場の取り組み ..... 32

### 編集方針

CSR報告書2020は、お客さま・取引先、株主・投資家、地域の皆さま、従業員などのステークホルダーの皆さま方とセントラル硝子グループのかかわりについて、より内容を充実させ、よりわかりやすくご報告することを目的に発行いたしました。

### 【参考ガイドライン】

- 日本レスポンシブル・ケア (RC) 協議会のRCコード
- ISO 26000 (社会的責任に関する手引き)
- 環境省「環境報告ガイドライン (2018年版)」

### 【対象期間】

2019年4月～2020年3月 (一部を除く)  
(安全衛生データ、海外関係会社環境データは、2019年1月～2019年12月)

### 【対象範囲】

セントラル硝子グループ (データ集計範囲は、セントラル硝子株式会社の工場、研究所、本社、一部の国内外関係会社)

### セントラル硝子グループとSDGs

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成されています。セントラル硝子グループは、さまざまな事業活動を通じて、SDGsの定める目標に取り組み、社会への貢献と企業の継続的な成長を目指します。



## ものづくりを通じて、 真に豊かな社会の実現に貢献します。



### 企業理念

当社グループの企業理念は、「ものづくりで築くより良い未来」「セントラル硝子グループは、ものづくりを通じて、真に豊かな社会の実現に貢献します。」を基本理念とし、その実現に向けて進むべき方向性を具体的に定めた基本方針と合わせて掲げています。

“ものづくり”とは、当社が創業当時から企業活動の中心に据えている、誠実を基本姿勢とした研究開発から製造、販売までの企業活動全般を含んだ概念であり、当社のすべての基礎となるものです。

この企業理念の下、当社グループの利害関係者に対して誠実な企業活動を行うために、セントラル硝子グループ行動規範を制定し、当社グループの全従業員での実践を求めてきました。

しかし、2017年、2018年に明らかとなった外部委託先起因の品質コンプライアンスに係る問題は、当社グループの行動規範に反するものであり、重大な問題として受け止めています。ものづくり企業として、労働安全に対する取り組みを必須とした上で、「品質」とその「安全性」を最優先にして取り組むことを徹底するために、セントラル硝子グループ行動規範の改定を行い、改

定の背景、その意図などを私自身のビデオメッセージにして、改めて全従業員とでその重要性を共有しました。

今後は、改定した行動規範の実践状況の監視を行い、当社グループ全体で再発防止に努めていきます。

### コンプライアンス

企業活動を行う上で、法律や規則を遵守することは必須であり、コンプライアンスは社会的責任を果たす上で必要不可欠です。

当社グループがコンプライアンスを遵守し、人びとが快適で健やかに暮らせる社会の実現に向けて、より一層の企業価値向上と収益の拡大を図るために、絶えず経営全体の透明性および公正性を高めていくとともに、取締役の監督機能と執行役員の業務執行機能を明確にした体制を築きました。

今後も、経営環境の変化に迅速に対応できる効率的かつ合理的な組織体制の継続的改善に努めていきます。

一方、品質コンプライアンスに係る問題に対しては、社内外への説明責任の充足、今後の対応の実効性向上の観点から、前述の「セントラル硝子グループ行動規範」に紐づく「品質ガイドライン」の制定を行い、これら上

位概念の実行を確実にするために、品質保証に関する組織の改定、それに伴うルールの改定などの品質保証体制の見直しを行いました。

改めて、コンプライアンスの重要性を当社グループ全体に浸透させ、業務における“誠実さ”を土台とする人づくり企業づくりを進めていきます。

### 活力溢れる企業風土の形成

当社グループは「ものづくりはひとづくり」という考えのもと、人材育成・人事制度を定めています。

ダイバーシティの推進に向けては、外国籍者、障がい者の積極的登用に加えて、女性採用比率の拡大、定年退職者の再雇用、他の勤め先を経た経験者の採用も推し進めてきました。

また、個人の実力・能力を最大限に発揮できる環境づくりに向け、メンタルヘルスケア、育児・介護に関する支援制度なども充実させてきています。

従業員一人ひとりが自分の成長を感じ、最大限に能力を発揮しながら、長く働ける、働きたいと思える活力溢れる企業風土の形成に向け取り組んでいきます。

### 環境課題の解決に向けて

当社グループでは、真に豊かな社会の実現に貢献するため、環境課題の解決に向けた取り組みにも注力しています。

その取り組みのひとつとして、世界的に問題となっている地球温暖化の抑制に寄与する温暖化係数の低いハイドロフルオロオレフィン製品群の開発を進め、製品化を行ってきました。

その成果が認められ、日刊工業新聞社主催の「オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」において、2014年の発泡剤に使用されるHFO-1233zd(E)の優秀賞受賞に続いて、2019年には溶剤/洗浄剤に使用されるCELEFIN® 1233Z (HFO-1233zd(Z))が経済産業大臣賞を受賞しました。

環境課題の解決に向けた取り組みも当社グループの重要な活動と位置づけ、継続して取り組んでいきます。

今後とも、ステークホルダーの皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

セントラル硝子株式会社  
代表取締役 社長執行役員

清水 正

# セントラル硝子グループの事業概要

## ◆ 事業内容

ガラス事業	建築用ガラス	フロート板ガラス、型板ガラス、網入板ガラス、熱線反射ガラス、加工ガラス（強化ガラス、耐熱強化ガラス、合わせガラス、複層ガラス、防犯ガラス）、鏡、防曇鏡、装飾ガラス、スクリーンガラス、薄板ガラス、化学強化ガラス、ガラスフリット・ペースト
	自動車用ガラス	赤外線カットガラス、紫外線カットガラス、アンテナ付きガラス、プライバシーガラス、モジュールガラス、遮音ガラス、熱線付きガラス、ヘッドアップディスプレイ用ガラス、各種安全ガラス
	ガラス繊維	長繊維、短繊維

※ガラス繊維は2019年4月1日に化成事業からガラス事業に移管しました。

化成事業	化学品	ハイドロフルオロオレフィン、ポリ塩化アルミニウム、石膏、フッ化水素酸
	ファインケミカル	医薬業原薬・中間体、弗素系有機・無機ファイン製品、高純度フッ化物ガス製品、電子材料、リチウムイオン二次電池用電解液、弗素系有機・無機試薬
	肥料	塩加燐安、NK化成、被覆肥料、有機化成、肥料原料、微生物農薬・資材

## Europe

会社名	所在地	主な業容
<b>ガラス事業部門</b>		
カーレックスガラス ルクセンブルク	ルクセンブルク	自動車用ガラスの製造、販売
<b>化成事業部門</b>		
セントラルガラス ジャーマニー	ドイツ	医薬品等のGMP受託製造
セントラルガラス ヨーロッパ	英国	調査・情報サービス
アポロサイエンティ フィック	英国	フッ素化学薬品の製造、販売
セントラルガラス チェコ	チェコ	リチウムイオン二次電池用電解液の製造、販売

## Asia

会社名	所在地	主な業容
<b>ガラス事業部門</b>		
台湾信徳玻璃	台湾	電子材料用加工ガラスの製造、販売
裕盛工業	台湾	自動車用ガラス、自動車用内装部品の製造、販売
聖戈班中硝安全 瑠璃（青島）	中国	自動車向け加工ガラスの製造、販売
<b>化成事業部門</b>		
基佳電子材料	台湾	情報・電子産業用特殊ガス製品および化学品の販売
基佳電子材料 シンガポール	シンガポール	情報・電子産業用特殊ガス製品および化学品の販売
基佳電子材料商貿 （上海）	中国	情報・電子産業用特殊ガス製品および化学品の販売
浙江中硝康騰化学	中国	リチウムイオン二次電池用電解液及びフッ素ケミカルの製造、販売
上海中硝商貿	中国	ガラス製品、化学製品、化学肥料、ガラス繊維等の卸売、輸出入
江西天賜中硝新材 料有限公司	中国	リチウムイオン二次電池用電解液の原料の製造、販売
浙江博瑞中硝科 技有限公司	中国	半導体向け特殊ガスの製造、販売
ジェイセル	韓国	リチウムイオン二次電池用電解液の製造、販売および技術サービスの提供
韓国セントラル硝子	韓国	ガラス製品、化学製品、化学肥料、ガラス繊維等の卸売、輸出入
セントラルガラス カンパニーインディア	インド	ガラス製品、化学製品、化学肥料、ガラス繊維等の卸売、輸出入
ジャパンベトナム ファーターライザー カンパニー	ベトナム	化成肥料の製造、販売

## Japan

会社名	所在地	主な業容
<b>ガラス事業部門</b>		
セントラル硝子販売	東京都	建築、住宅用ガラスの加工、卸、販売、施工
セントラル硝子工事	東京都	建築ガラスの工事請負、施工
東北硝子建材	宮城県	建築ガラスの工事請負、施工
尾州硅砂工業	愛知県	硅砂、砂利の精製
三重硝子工業	三重県	板ガラスの二次加工品の製造・販売
セントラル硝子 プラントサービス	三重県	木箱、パレットなどの製造・販売、板ガラスの切断、二次加工、工場施設の保全、装置の製作・修理
セントラル・ サンゴパン	東京都	自動車用ガラスおよびその他ガラス製品の購入、販売、輸出入
セントラル ガラスモジュール	栃木県	自動車部品等の製造、加工、販売
日本特殊硝子	岐阜県	自動車用ガラス、建築用加工ガラスの製造
セントラルグラス ファイバー	三重県	ガラス長繊維、ガラス短繊維およびその関連製品の製造、加工、販売
双和運輸倉庫	大阪府	倉庫業、貨物運送業
中央インシュレーション	愛知県	ガラス短繊維製品の製造、加工
<b>化成事業部門</b>		
セントラル化成	東京都	被覆肥料、塩安、化成肥料およびその関連製品の製造、加工、販売
東商セントラル	東京都	各種物資の販売、保険代理業、貨物運送業、包装荷役
セントラルエンジ ニアリング	山口県	各種プラント等の設計および施工、機械装置の製作、修理
宇部分析センター	山口県	各種化学品、肥料などの分析業務
宇部吉野石膏	山口県	石膏プラスターの製造

## America

会社名	所在地	主な業容
<b>ガラス事業部門</b>		
カーレックス ガラスアメリカ	米国	フロートガラスの製造および自動車用ガラスの製造、販売
<b>化成事業部門</b>		
シンクレスト ラボラトリーズ	米国	フッ素化学製品の製造、加工、販売
セントラルガラス インターナショナル	米国	調査・情報サービス、各種物資の販売

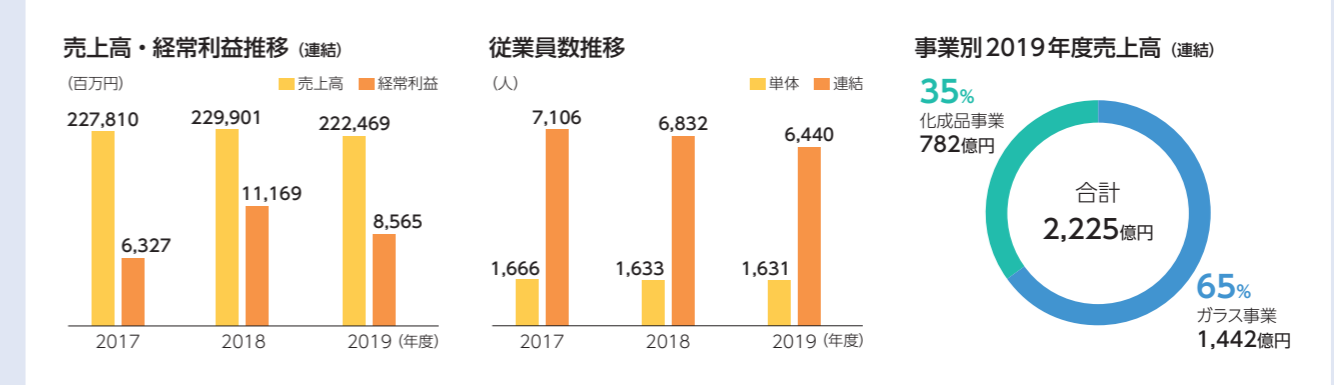


## ◆ 会社概要 (2020年3月31日現在)

商号	セントラル硝子株式会社
設立	1936年10月10日
従業員数	1,631人（連結6,440人）
資本金	181億6,828万円
上場取引所	東京証券取引所

## ◆ 事業所一覧

本社	東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1（興和一橋ビル）
化学研究所	埼玉県川越市中台2丁目17番地5
化学研究所（宇部）	山口県宇部市大字沖宇部5253番地
硝子研究所	三重県松阪市大口町1510番地
宇部工場	山口県宇部市大字沖宇部5253番地
松阪工場	三重県松阪市大口町1521番地2
松阪工場堺製造所	大阪府堺市堺区築港南町6番地
川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浮島町10番2号



# セントラル硝子グループの製品紹介

セントラル硝子グループでは、ガラスと化学に根ざした製品を供給しています。ビルや住宅用、自動車用ガラス製品の素材提供のほかに、工業製品の原料、製造工程を支える材料、また、肥料や医薬品など、さまざまなところで、セントラル硝子グループの製品は快適な生活を支えています。今後もセントラル硝子グループは、より地球環境にやさしい製品と人の健康・安全に配慮した製品を開発し提供していきます。



## ガラス事業

### ガラス

- 1 建築・住宅用ガラス**  
エコガラス、防犯ガラス、防音ガラスなど省エネや室内の快適性に貢献するガラスです。
- 2 自動車用ガラス**  
自動車用窓ガラスとして合わせガラス、強化ガラスを提供しています。断熱ガラスなどの環境保全に寄与する高性能ガラスも展開しています。
- 3 タッチパネル用ガラス**  
タッチパネルのセンサー基板、カバーガラスに使用される大変薄いガラスです。
- 4 無鉛鏡・防曇鏡**  
無鉛鏡は、裏止め用塗料に有害な鉛成分を含まない、環境にやさしい鏡です。防曇鏡は、鏡表面に施した特殊機能膜が、鏡の曇りを抑制します。

### ガラス繊維

- 5 樹脂補強材（浴槽など）**  
ガラス長繊維は、FRP 製浴槽をはじめとして、住宅、自動車、船舶からエレクトロニクス製品にいたるまで幅広く使われています。
- 6 自動車用吸音材**  
ガラス短繊維は、自動車・鉄道車両などの吸音、断熱材として使用されている、火災に強い不燃材料です。

### 化学品

- 7 断熱フォーム用発泡剤**  
住宅や冷凍・冷蔵ショーケースなどに使われる断熱フォームにはセントラル硝子が製造するハイドロフルオロオレフィン系の発泡剤が使われています。ハイドロフルオロオレフィン系はオゾン層破壊がなく、地球温暖化係数が小さい、環境対応型のフルオロカーボン材料です。
  - 8 フッ素系洗浄剤・溶剤**  
金属加工部品の精密な脱脂洗浄のための洗浄剤やドライクリーニング用の洗浄剤、特殊コーティング用の溶剤にもセントラル硝子のハイドロフルオロオレフィン系のフルオロカーボン材料が使われています。
- ### ファインケミカル
- 9 リチウムイオン電池用電解液**  
EV（電気自動車）やハイブリッドカーなど向けのリチウムイオン電池に使用される電解液です。

- 10 医薬品原薬・中間体**  
培ってきたフッ素化学などの技術を活かし、麻酔薬や潰瘍薬などの医薬品の原薬や中間体を提供しています。
  - 11 電子材料用フッ素製品**  
パソコンや携帯電話に使用される半導体や液晶パネル製造時に、フッ素系のプロセスガス、クリーニングガス、レジスト材料が使用されています。
- ### アグリ・バイオ
- 12 環境配慮型農業資材**  
【被覆肥料セラコート®R】  
理想の肥効、省力・低コスト、環境に配慮の3つをコンセプトに開発された肥効調節型被覆肥料です。施肥効率が高いため、施用量が削減できます。  
【微生物防除剤】  
人畜・作物に対する安全性が高く、収穫前まで使用でき、農業使用回数にカウントされないため、有機農産物や特別栽培農産物に適合する環境保全型微生物農薬です。

## 化成事業

# セントラル硝子の社会課題への取り組み

セントラル硝子は、さまざまな場面で社会課題に取り組んでいます。  
ここでは、長年の研究の成果である、環境負荷低減に貢献する製品をご紹介します。

## ガラス事業

### 有鉛鏡から無鉛鏡へ向けての取り組み ～鏡の銀膜および銅膜のシケ（酸化）を防ぐ裏面塗料の無鉛化～

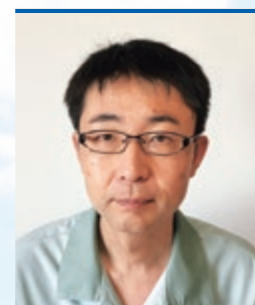
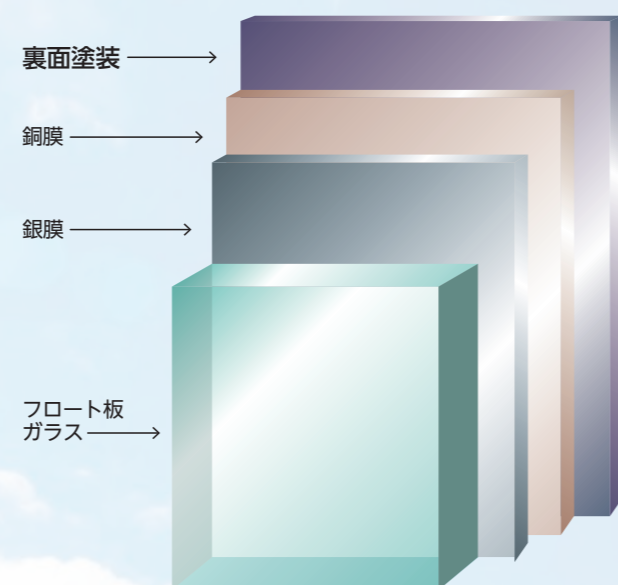
#### 鏡裏面塗料の無鉛化の取り組み

鏡は、住宅、オフィス、レストラン、ホテルなどの内装材として幅広く使われており、生活の中にとけ込み、無くてはならない存在です。当社の鏡は「ミエミラー」の呼び名で広く知られており、長年にわたって高品質の商品を提供し、高い評価をいただいております。

その鏡の構造は、フロート板ガラスを使用し、反射面となる銀膜の上に銅膜を施し、裏面塗料をコーティングしています（図）。銀膜および銅膜は酸化腐食されやすい膜であるため、裏面塗料には高い防錆性能が必要です。従来の裏面塗料には優れた防錆効果がある鉛系顔料を含んだ塗料を多用してきましたが、鉛は環境負荷物質であることから、無鉛化が求められていました。

当社としても、社会からのニーズ、地球環境への貢献、持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みの観点から、鏡に使用する裏面塗料の無鉛化の開発を進めてきました。鉛を使用しない裏面塗料の防錆性能の確保には大きな課題がありましたが、塗料組成の改良や焼成温度等の生産プロセスを最適化することで従来の鉛含有塗料と同等以上の性能を得ることができました。2018年6月に鏡を供給しているすべての取引先に対し、無鉛化製品への変更申請を行い、了承いただいた取引先から順次供給を開始し、2020年5月にすべての取引先への無鉛鏡の供給が完了しています。さらに、裏面塗料の無鉛化が達成できたことから、鉛を含む研磨汚泥は「特別管理産業廃棄物」の区分から外れることで、環境負荷の低減に貢献することができました。

■ 鏡の断面図



VOICE  
VOICÉ  
セントラル硝子  
プラントサービス

扇谷 幸宏

#### 地球環境に優しい製品をつくります。

有害な鉛を使わないというニーズは以前からあったものの、従来の有鉛鏡と同等以上の性能を持つ無鉛鏡の開発は非常に困難な問題でした。塗料の組成改良だけでは満足する性能が得られず、塗料の性状に合わせて生産プロセスを細かく調整するという技術者の創意工夫と努力を重ねた結果、無鉛鏡の開発に成功しました。

これからも地球環境の保護に貢献できる製品開発、モノづくり現場を目指し、ミエミラーのブランド力を向上させていきます。

## 化成品事業

### 「環境性」、「洗浄性」、「安全性」、「取扱性」の全てに優れた 次世代フッ素系溶剤「CELEFIN® 1233Z」が幅広い分野で活躍

#### 低GWPフッ素系溶剤の開発と実用化が 認められ「経済産業大臣賞」を受賞

従来の産業用フッ素系溶剤は、オゾン層破壊係数（ODP）の高い物質（HCFC）や、地球温暖化係数（GWP）の極めて高い物質（HFC）が広く使用されておりました。その後、環境負荷の高い溶剤に対する規制が強化されるなか、当社は、ODPゼロかつGWP<1を両立させた「環境に優しい」フッ素系溶剤としてHFO化合物であるCELEFIN® 1233Z（以下1233Z）を開発し、2015年10月より世界に先駆け商業生産を開始いたしました。

これまで、国内外の200社以上のお客さまと用途開発活動（金属部品の脱脂洗浄、電子部品の精密洗浄、医療器具への潤滑油塗布など）を行ってきており、市場からは1233Zの有効性を高く評価されております。その結果、2019年9月には、「低GWPフッ素系溶剤の開発と実用化」が認められ、第22回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞において、「経済産業大臣賞」を受賞いたしました。

HCFCが全廃となる2020年以降には、国内外で本格的な1233Zの需要拡大が期待されております。引き続き、1233Zの安定供給に努めていきます。

#### ■ 「CELEFIN® 1233Z」の特徴

	<b>① ゼロODP</b> ODPは実質的にゼロであり、オゾン層を破壊しません。	<b>① 洗浄力</b> KB値=34であり、オイルの溶解性に優れています。	<b>① 不燃物</b> 引火点と燃焼範囲がありません。
	<b>② 低GWP</b> GWPIは二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）よりも低く、地球温暖化への影響が極めて軽微です。	<b>② 乾燥性</b> 適度な沸点を持ち、蒸発潜熱が小さく乾燥性に優れています。	
		<b>③ 浸透性</b> 表面張力が小さく、精密洗浄にも適します。	<b>③ 関係法令</b> PRTR法、労働安全衛生法等の法令に非該当です。



VOICE  
VOICÉ  
化成品営業部 HFO 営業開発室  
技術サービスグループ（川崎）

佐久 冬彦

#### 環境調和型の新規溶剤の普及を 技術フォローしています。

CELEFIN® 1233Zの生産拠点である川崎工場内に、洗浄機や各種分析機器を備えた溶剤試験の専用ラボを開設しました。

お客さま立合いのもと、実機での洗浄試験や基礎的な評価、検証試験を実施し、お客さまがCELEFIN® 1233Zを採用する際の技術支援を行っています。また、採用後には液管理アドバイスなどのアフターフォロー、お客さまが抱える技術課題に対する個別試験やソリューション提案などを通して、お客さまを支援しています。

今後も、きめ細かなサポート体制により、CELEFIN® 1233Zの一層の普及推進に努めていきます。

#### ■ 性能比較

項目	単位	CELEFIN® 1233Z (HFO-1233zd(Z))	HFO-1233zd(E)	ZEM-SCREEN® (HFO-1234ze(E))	HFC-245fa	HCFC-225ca/cb (生産停止)	HCFC-141b (生産停止)	1-ブロモプロパン (他社製品)	HFC-365mfc (他社製品)	塩化メチレン (他社製品)	
環境性能	オゾン層破壊係数(ODP)	CFC-11=1	≒0	0	0	0.03	0.11	0.0049	0	0.007	
	地球温暖化係数(GWP)	CO <sub>2</sub> =1	<1	<1	858	127/525	782	0.3	804	9	
	大気寿命	—	12日	26日	16日	7.7年	1.9年/5.9年	9.2年	11日	8.7年	0.4年
安全性	引火点	℃	なし	なし	N/A(気体)	なし	なし	なし	なし	なし	
	燃焼範囲	vol%	なし	なし	5.6~14.4	なし	なし	9.4~15.5	4.0~7.8	3.6~13.3	14~22
	毒性 許容濃度 (メーカー暫定値)	ppm	100	800	800	300	100	500	0.5*	1000	50*

オゾン層保護・地球温暖化防止大賞  
2019年第22回 経済産業大臣賞  
2014年第17回 優秀賞  
2009年第12回 優秀賞

※日本産業衛生学会勧告値

# 経営全体の透明性・公正性を高めるために

セントラル硝子グループは、経営全体の透明性・公正性を高めるとともに、効率化と迅速化を図るコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。また、誠実な企業活動を実践するために、全従業員のコンプライアンス意識を高揚させるための取り組みを推進しています。



## コーポレート・ガバナンス

セントラル硝子は、一層の企業価値向上と収益の拡大を図るため、絶えず経営全体の透明性および公正性を高めていくとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる効率的かつ合理的な組織体制の確立に努めていくことをコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方にしています。

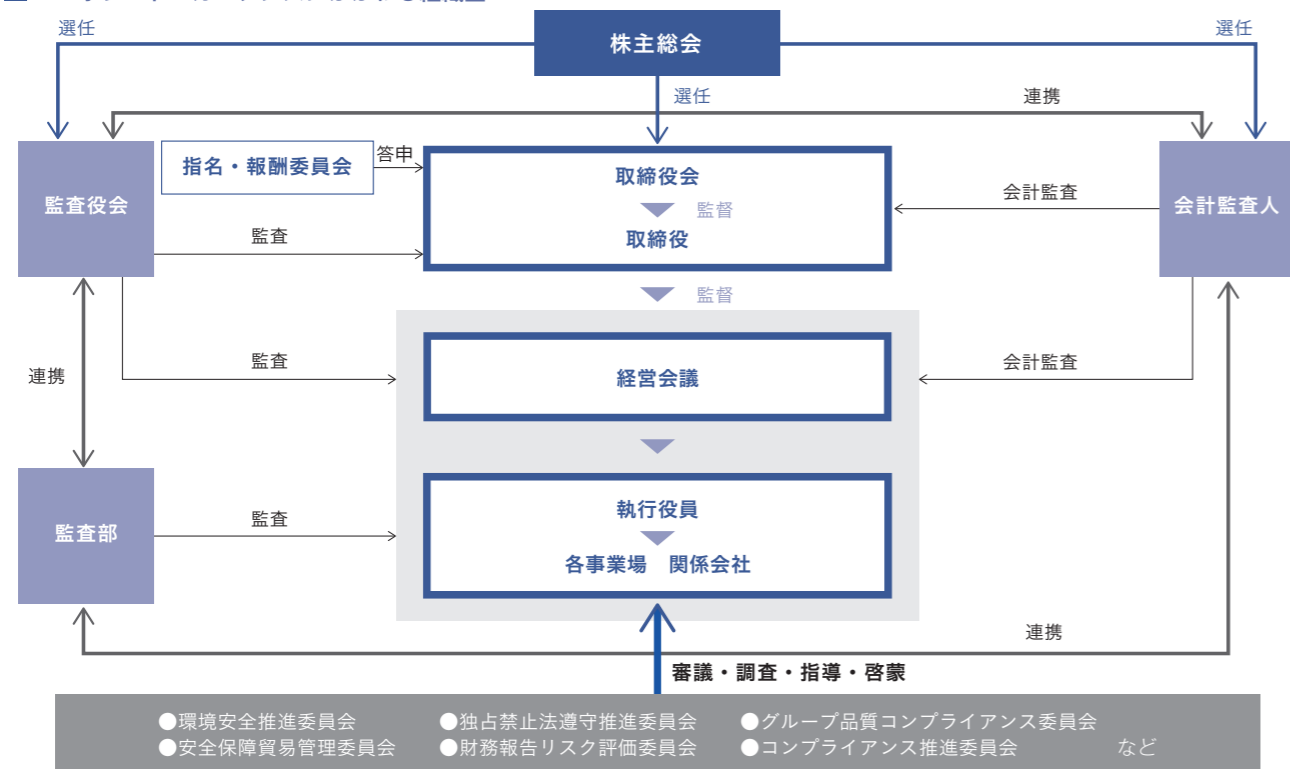
この考えに基づき、セントラル硝子は、取締役会と監査役会をコーポレート・ガバナンスの基本的体制とした上で、執行役員制度を導入し、重要な経営事項の意思

決定および業務執行の監督機能ならびに業務執行機能を分離することにより取締役会をスリム化し、経営の効率化と迅速化を図っています。

また、会社法で定められた会計監査人を設置しているほか、内部監査部門として監査部を設置し、当社および子会社などの業務全般の監査を行い、代表取締役および監査役にその結果を報告しています。

監査役、会計監査人および監査部は、情報・意見交換を行い、連携を図りながら、問題の共有化に努めて監査の充実と合理化を図っています。

■コーポレート・ガバナンスにかかわる組織図



## 取締役会

取締役会は、原則として月1回、また必要に応じて適宜開催し、取締役会規則に則り法定決議事項および経営上重要な事項を審議、決議し、取締役および社長をはじめとする執行役員の業務執行を監督しています。

また、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立性を備えた社外取締役および社外監査役が、取締役会の判断の公正さを担保し、かつ取締役会の恣意的な判断を排除するための機能と役割を担っています。

## 経営会議

経営会議は、経営会議規則に則り、原則週1回開催し、業務執行上重要な事項を審議、決議し、取締役会への上程議案を審議しています。

## 監査役会

監査役会は、原則として月1回、また必要に応じて適宜開催し、監査に関する重要な事項について協議・決議するほか、監査役相互の情報の共有と意見交換を密に行っています。また、定期的に代表取締役と監査上の重要な課題などについて意見交換を行っています。

監査役は、取締役会をはじめとする重要な会議に出席し、取締役および執行役員の職務執行状況を監査するとともに、当社各事業場および関係会社の業務遂行状況に関する監査を行っています。

## 監査部

セントラル硝子グループは、内部監査および財務報告に係る内部統制システムの整備を目的として、本社内に監査部を設置しています。

内部監査については、グループ全体の業務の有効性および効率性の維持、資産保全、法令・社内規程類などの遵守、さらに不正の未然防止を目的とした業務監査を行っています。監査を通じて改善すべき点を発見した際は、必要に応じて改善に関する助言、勧告を行い、適正かつ効率的な業務運営の維持に努めています。

2019年度は、年間計画に沿って業務監査を行いました。監査を通じて改善に関する助言、勧告を行った場合は、改善完了まで継続的なフォローアップを行っています。

財務報告に係る内部統制システムの整備については、

財務報告の信頼性の保証を目的に、毎年「セントラル硝子グループ取組方針」を周知し、重要な拠点を対象に独立の立場から内部統制の有効性を評価しています。

2019年度は、本方針に従い評価を行い、2020年3月31日現在の当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であることを記載した「内部統制報告書」を提出しています。

また、監査役との連携のために、定期的、かつ必要に応じて会合を持っています。相互に情報を交換し、協力体制を構築することにより、監査の充実と効率化を図っています。

## 環境安全推進委員会

セントラル硝子グループは、レスポンシブル・ケア活動の経営方針に基づき、製品の開発から廃棄にいたる全ライフサイクルにおける「環境・安全・健康」の確保のために、レスポンシブル・ケア活動の全社的な推進を図る組織として、環境安全推進委員会を設置しています。

2019年度は、2018年度の安全衛生管理方針、環境方針、レスポンシブル・ケア活動に対する全社報告および2019年度のそれぞれの方針をもとにした全社活動計画の周知と、各製造部門、研究開発部門の活動報告を行い、情報の共有化とともに継続的な改善に向けた活動を行っています。

### ■委員構成 (2020年4月1日現在)

委員長	環境安全担当執行当役員
副委員長	環境安全担当(副)執行役員
委員	人事部長、硝子生産技術センター長、硝子品質保証室長、化成品技術企画部長、化成品生産技術センター長、化成品品質保証室長、環境安全部長、品質保証統括部長、化学研究所長、硝子研究所長、宇部工場長、松阪工場長、松阪工場堺製造所長、川崎工場長
陪席	常勤監査役



環境安全推進委員会

経営全体の透明性・公正性を高めるために

## 独占禁止法遵守推進委員会

セントラル硝子グループは、独占禁止法遵守体制を確立し、同法令遵守の推進を図る組織として、独占禁止法遵守推進委員会を設置しています。

2019年度は、独占禁止法に抵触のおそれのある情報開示の有無確認、カルテル摘発動向、下請取引調査、主に営業部門への社内教育を行っています。また、外部講師による下請法に関する教育を行い、独占禁止法の遵守に向けた活動を行っています。

### ■委員構成（2020年4月1日現在）

委員長	経営管理室担当役員
委員	経営管理室長、国際部長、購買部長、硝子販売部長、自動車機材部長、硝子企画部長、硝子生産技術センター長、化成品営業部長、医療化学品営業部長、精密化学品営業部長、電子材料営業部長、エネルギー材料営業部長、化成品事業企画部長、化成品技術企画部長、アグリ・バイオ事業推進室長、硝子繊維部長
オブザーバー	常勤監査役、監査部長、(株)東商セントラル、セントラル化成(株)、セントラルグラスファイバー(株)、セントラル・サンゴバン(株)

## グループ品質コンプライアンス委員会

セントラル硝子グループは、製造物責任法に関する事項については、製品安全対策委員会にて活動を行ってきました。2020年3月に、製品安全に関する活動も含めて、セントラル硝子グループ全体の品質保証体制をより一層強化すべく、グループ横断組織であるグループ品質コンプライアンス委員会を創設しました（製品安全対策委員会は廃止）。

グループ品質コンプライアンス委員会では、次の会議体を通して品質活動を推進していきます。

- ①緊急対策会議：品質と製品安全の問題に迅速な対応を行う
- ②再発防止会議：問題の再発防止の徹底を図る
- ③品質推進会議：品質活動のPDCAを推進する

### ■委員構成（2020年4月1日現在） （グループ品質コンプライアンス委員会 品質推進会議）

委員長	品質保証担当役員
副委員長	品質保証統括部長
委員	経営管理室長、購買部長、硝子販売部長、自動車機材部長、硝子企画部長、硝子生産技術センター長、硝子品質保証室長、化成品営業部長、医療化学品営業部長、精密化学品営業部長、電子材料営業部長、エネルギー材料営業部長、化成品事業企画部長、化成品技術企画部長、化成品生産技術センター長、化成品品質保証室長、アグリ・バイオ事業推進室長、硝子繊維部長、化学研究所長、化学研究所副所長、硝子研究所長、宇部工場長、松阪工場長、松阪工場堺製造所長、川崎工場長、関係会社社長（主要関係会社）
陪席	常勤監査役

## 安全保障貿易管理委員会

セントラル硝子グループは、国際的な平和および安全の維持、大量破壊兵器および通常兵器の過度の蓄積防止の観点から、貨物の輸出および非居住者への技術の提供または外国において技術の提供をすることを目的とする取引を規制する外国為替および外国貿易法など輸出関連法規により規制されている貨物の輸出および技術の提供について、外為法などに違反してこれらを行わないことを基本方針とし、この方針を社内に周知徹底するための「安全保障貿易管理プログラム」を制定しており、そのプログラムの達成を図る組織として、安全保障貿易管理委員会を設置しています。

2019年度は、ガラス事業および化成品事業製品の輸出品目の該非判定結果報告、主な法令・制度の改定などの周知、社内監査結果をもとに、法令遵守の周知徹底を行っています。

### ■委員構成（2020年4月1日現在）

委員長	代表取締役
委員	硝子企画部長、化成品技術企画部長、情報システム部長、硝子販売部長、自動車機材部長、硝子生産技術センター長、化成品営業部長、医療化学品営業部長、精密化学品営業部長、電子材料営業部長、エネルギー材料営業部長、化成品事業企画部長、アグリ・バイオ事業推進室長、硝子繊維部長、環境安全部長、化学研究所長、硝子研究所長
社外委員	(株)東商セントラル貿易担当部長
陪席	常勤監査役、監査部長

## 財務報告リスク評価委員会

セントラル硝子グループは、経営の意思決定、および会計事実が、財務報告に与える影響の評価、分析を行い、財務報告の信頼性を確保する組織として、財務報告リスク評価委員会を設置しています。

2019年度は、社内起因、外的要因などの影響により、財務報告リスクが見込まれる事象の発生、計画に対し、そのリスクを回避するための評価、分析を中心とした活動を行い、必要な案件については、経営会議の議案にしています。

### ■委員構成（2020年4月1日現在）

委員長	経理部担当役員
委員	経営管理室担当役員、監査部担当役員、経理部長、経営管理室長、監査部長
陪席	常勤監査役

## コンプライアンス推進委員会

セントラル硝子グループは、コンプライアンスの推進を図るために「コンプライアンス・マニュアル」を制定しており、コンプライアンスに関連する事項を調査、審議する組織として、コンプライアンス推進委員会を設置しています。

2019年度は、品質コンプライアンス問題の発生により、「コンプライアンスマニュアル」の改定を行い、全

2017年のOEM先に起因する特定防火設備（防火扉）であるスーパーファイアレックスの大臣認定された仕様と異なる製品施工、2018年のセントラル硝子のグループ会社であるセントラル硝子プラントサービス株式会社が事業買収を行った旧富士ハードウェア株式会社の工場において判明した、過去にわたる一部製品のヒートソークの未実施を契機とする「JIS認証の取消し」といった品質コンプライアンスの問題を二年連続で発生させてしまいました。

この事実は、セントラル硝子グループとしての重大な問題と受け止め、改めて品質保証体制の見直しを行いました。社内外への説明責任の充足、今後の対応の実効性向上の観点から、「セントラル硝子グループ行動規範」に紐づく「品質ガイドライン」の制定を行い、これら上位概念の実行を確実にするために、品質保証に関する組織の改定、それに伴うルール改定などの品質保証体制の見直しを行いました。

改めて、コンプライアンスの重要性を当社グループ全体に浸透させ、業務における“誠実さ”を土台とする人づくり企業づくりを進めていきます。

従業員への周知を行いました。また、関係会社を含めた内部通報制度の整備、内部通報案件に対する対応、コンプライアンス推進教育を行いました。

### ■委員構成（2020年4月1日現在）

委員長	経営管理室担当役員
委員	経営管理室長、人事部長、監査部長
陪席	常勤監査役

## コーポレートガバナンス・コードへの対応

セントラル硝子は、2018年6月に改訂・施行された東京証券取引所が定めるコーポレートガバナンス・コード（以下CGコード）に対する活動実績を記載したコーポレートガバナンス報告書を定期的に公開しています。

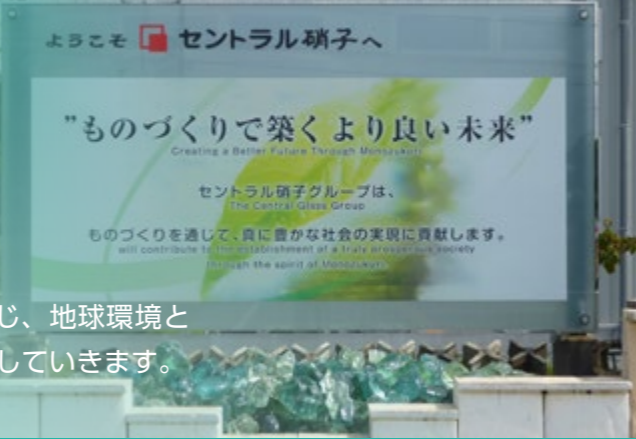
2019年度は、取締役会の任意の諮問機関として、取締役および監査役の選任と解任に関する株主総会議案の原案、代表取締役および業務執行取締役の選定と解職の原案、取締役および監査役の報酬などに関する株主総会議案の原案などを審議し、取締役会に答申する「指名・報酬委員会」の運営を開始するなどの会社の持続的な成長と中長期的な企業価値を向上させるために、CGコードの趣旨に沿った公正で迅速果敢な意思決定の仕組みの運用および継続的な見直しを行っています。



# レスポンシブル・ケア活動の推進

“すべては人と地球環境のために”

セントラル硝子グループは、レスポンシブル・ケア活動を通じ、地球環境と人々の健康と安全に配慮し、豊かな社会環境実現のために活動していきます。



## 環境・安全マネジメント

セントラル硝子グループは、製品の研究開発段階から製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄にいたる全ライフサイクルにわたる「環境・安全・健康」の確保、環境保護のために、レスポンシブル・ケア活動を主体とした環境安全のマネジメントを推進しています。

セントラル硝子グループでは、年度\*1ごとに「環境方針」「安全衛生管理方針」を掲げ、各事業所で具体的な目標にまとめ上げ、具体的な環境・安全に対する取り組みを行っています。

\*1 年度：環境4月～3月、安全衛生1月～12月

### 2019年度環境方針

1. コンプライアンスの徹底
2. 地球温暖化防止活動の強化
3. 3Rを推進し廃棄物削減の継続推進

### 2019年安全衛生管理方針

「安全で健全かつ活力ある職場環境の維持・向上に努め、ゼロ災を達成する。ご安全に！」

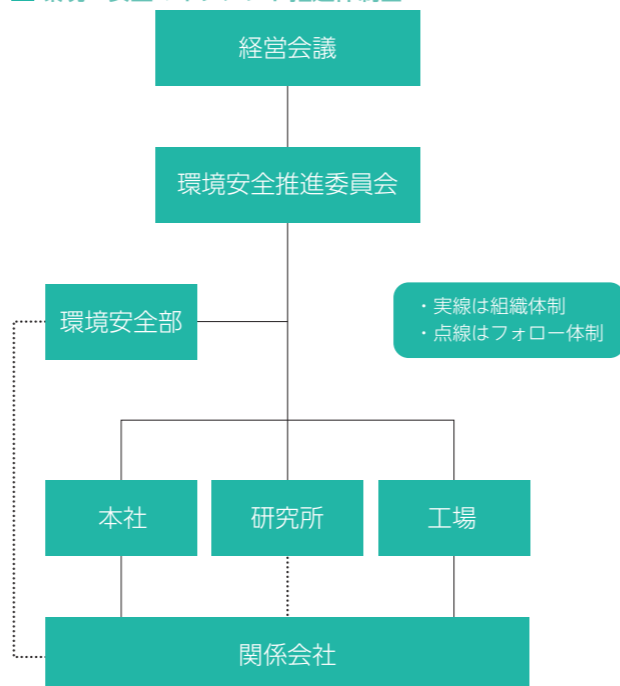
#### 重点実施項目

1. 全従業員に対する安全意識の高揚と繰返し注意喚起の実施（災害発生ゼロを目指す）
2. 作業基準の見直しと順守の徹底（決められたことを守る）
3. リスクアセスメントの徹底（リスク低減措置の実施）
4. 過去災害の周知と類似災害の防止
5. 生活習慣を見直し健康保持増進
6. 休暇取得促進と適切な労働時間による職場環境の向上
7. 通勤時及び日常の防衛運転の徹底
8. 緊急通報体制の更なる整備と遵守

## 環境・安全マネジメント推進体制

セントラル硝子グループでは、環境安全推進委員会を設置し、事務局である環境安全部がセントラル硝子グループの環境・安全活動を推進しています。本社・研究所・工場・関係会社では各事業所の特有事項を活動計画に織り込み、具体的な環境・安全に対する取り組みを行っています。

### 環境・安全マネジメント推進体制図



\*環境安全品質マネジメント部は、2020年2月1日付け組織変更にて環境安全部と品質保証統括部となりました。

## レスポンシブル・ケア (Responsible Care: RC) とは

化学系の企業の多くは、化学物質の開発段階から製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄にいたる全過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保しています。そして、その活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動に結び付けています。この活動を、レスポンシブル・ケアと呼んでいます。



## 2019年(度) 目標と取り組み結果

課題	(P) 2019年(度) 目標	(D) 2019年(度) 取り組み結果	(C) 評価	(A) 2020年(度) の取り組み
環境・安全マネジメント	2019年度環境方針の推進 2019年安全衛生管理方針の推進	・2019年度環境方針、2019年安全衛生管理方針に基づき、各事業所で年度方針を策定し、活動を実施 ・環境安全自主監査、環境安全現地監査にて、取り組み状況を確認 ・環境安全推進委員会で経営層レビュー	○	2020年度環境方針の推進 2020年安全衛生管理方針の推進
環境保全の推進	2020年度のCO <sub>2</sub> 排出削減(目標2005年度比15%減)	・CO <sub>2</sub> 排出量466千トン(2005年度比50.5%減)	○	2020年度のCO <sub>2</sub> 排出削減(目標2005年度比15%減)に向けた活動の継続
	2020年度の産業廃棄物最終処分量削減(目標2000年度比71%減)	・産業廃棄物最終処分量7.8千トン(2000年度比88.5%減)	○	産業廃棄物最終処分量削減(目標2000年度比71%減)に向けた活動の継続
保安防災の推進	設備の安全対策の向上	・法定点検、自主点検の徹底 ・安全設備の設置、導入 ・作業基準書などの整備、徹底	○	設備の安全対策、作業の安全確保の実施
	事故情報の有用活用	・保安防災データベースを活用し、国内関係会社を含めて、事故情報と再発防止対策を共有。	○	保安防災データベースの効果的活用の推進
労働安全衛生の推進	職場環境の維持・向上 ゼロ災の達成	・2018年労働災害白書の要因解析などに基づく災害防止策の実施 ・各事業所へ労働災害撲滅に向け安全衛生活動の活性化を指示 ・労働災害発生件数40件	△	2019年労働災害白書により、災害発生要因解析などに基づく災害防止策の実施
物流安全の推進	化学物質輸送時の事故防止と事故発生時の被害拡大防止	・より適切な管理を行うために、「物流安全管理指針」、「イエローカード作成管理要領」の見直し改定を実施。 ・見直し改定したルールに沿って運用されていることを、社内データベース等で確認	○	新規イエローカードの整備および既存のイエローカードの必要な見直し実施
	法令遵守による労働者の安全と健康の確保、環境汚染の防止	・化審法、化管法(PRTR制度)等に沿った必要な届け出の実施 ・関係法令の遵守状況を、自主監査報告書および環境安全現地監査で確認	○	化学物質の環境への排出量の削減 関係法令の継続遵守
化学物質管理の推進	アスベストの使用・保管状況の把握および適切な処分の実施	・1回/年の建屋、設備を対象にしたアスベストの使用・保管・処分状況の調査の実施 ・アスベストの使用・保管の状況を自主監査報告書および環境安全現地監査で確認	○	アスベストの使用・保管状況の把握および適正な処分の継続実施
	PCB含有機器の厳重管理と法令に基づく処分の実施	・四半期ごとのPCB機器の保有・処分状況の調査の実施 ・PCB機器の管理状況を自主監査報告書および環境安全現地監査で確認	○	PCB機器の使用・保管状況の把握および法令に基づく処分の継続実施
	SDS・GHSラベルによるリスク軽減	・JIS Z 7252:2019、JIS Z 7253:2019の関係部署(営業部門、製造部門、研究部門)に対する教育の実施 ・改正されたJISに沿ってSDS・GHSラベルが見直し整備されていることを発行時ごとに確認	○	発行時ごとにおけるSDS・GHSラベルの確認の継続実施
コミュニケーション	地域活動への参加 地域社会との共生	・地域ボランティア活動への参加 ・地域対話の実施	○	・地域ボランティア活動への参加の継続 ・地域対話の継続実施

評価：○…目標を達成 △…概ね達成したが、一部未達成 ×…追加対策が必要  
\*安全衛生に関する集計時期は、2019年1月～12月

レスポンス・ケア活動の推進

環境安全監査

セントラル硝子グループでは、工場・研究所および国内関係会社を対象に、マネジメントシステム、環境保全、保安防災、労働安全衛生、物流安全、化学品・製品安全対策、社会との対話などの管理状況を確認しています。

確認方法は、各事業所がチェックシートに自ら回答する「環境安全自主監査」と、監査チームが直接事業所にて管理状況を確認する「環境安全現地監査」があります。

2019年度は、セントラル硝子グループの国内52事業所を対象に「環境安全自主監査」を行い、10事業所を対象に「環境安全現地監査」を行いました。

また、海外関係会社については、12事業所を対象とした労働災害発生状況調査と9事業所を対象とした環境保全調査を行いました。

引き続き、国内外の各事業所の継続的改善につながる

よう、環境安全監査および各種調査に取り組んでいきます。

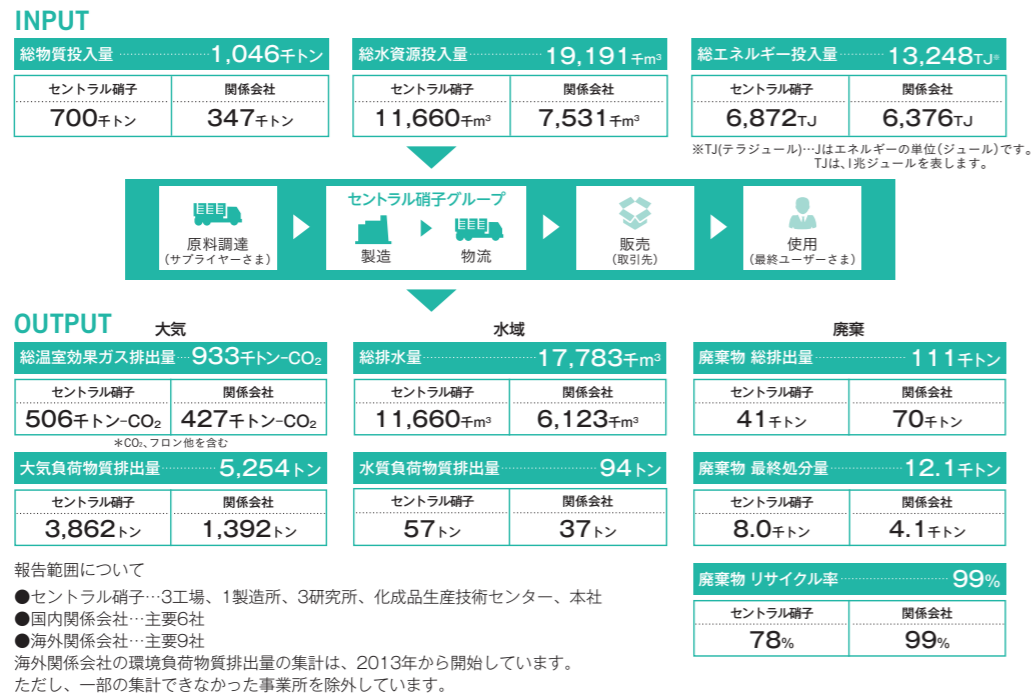
環境保全の推進

セントラル硝子グループの物質フロー

セントラル硝子グループは、生産活動における環境負荷を定量的に把握し、環境面の課題を抽出、抽出した課題の改善により、環境負荷低減の努力を続けています。ガラス部門は原料の溶解に多大な熱エネルギーを使用するため、主として地球温暖化防止対策を、化成品部門では環境にやさしい製品の開発や廃棄物削減をそれぞれの重点テーマとして、取り組んでいます。

引き続き、省エネルギー活動や再生循環型システムの構築に向けて、努力していきます。

物質フロー (2019年度実績)



温室効果ガス排出量削減

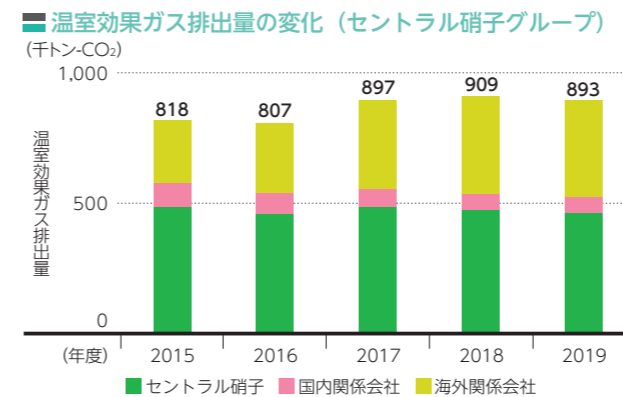
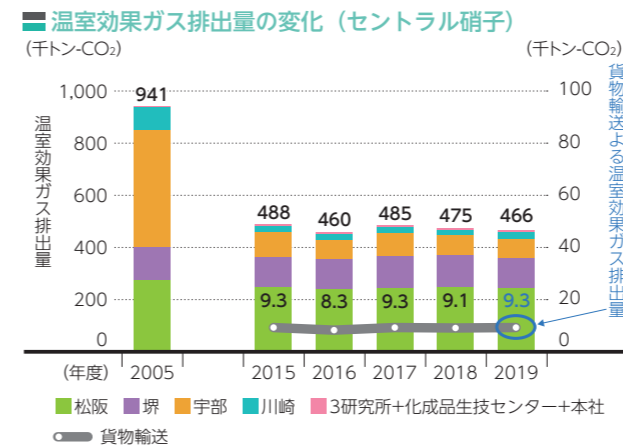
セントラル硝子では、地球温暖化防止の中期的な取り組みとして、工場操業に伴う温室効果ガス排出量を2020年までに2005年度比で15%削減する目標を立て、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

2019年度の工場操業に伴う温室効果ガス排出量は、工場操業における電力最適化などを講じた結果、前年度

より減少し466千トン-CO<sub>2</sub> (2005年度比50.5%減)となり、すでに目標を達成、継続しています。一方、製品の輸送による温室効果ガス排出量については、鉄道・船舶などのモーダルシフトを増やすなど、輸送の際に発生する温室効果ガス排出量の削減に努めていますが、前年度より微増、一昨年(2017年度)と同等の結果となりました。

また、セントラル硝子グループの温室効果ガス排出量は、前年度より微減、一昨年(2017年度)と同等の結果となりました。

2020年度内には2030年に向けた削減目標を設定し、引き続き、国内および海外関係会社を含め温室効果ガス排出量削減に努めていきます。



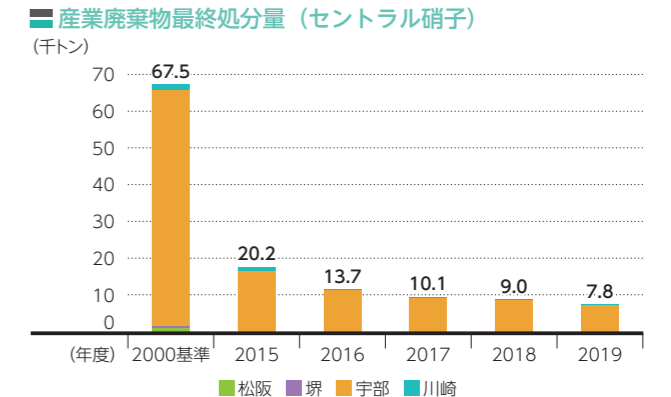
産業廃棄物最終処分量の削減

●セントラル硝子:

セントラル硝子では、産業廃棄物最終処分量を2020年までに2000年度比で71%削減する目標<sup>\*1</sup>を立て、産業廃棄物の削減に取り組んでいます。

2019年度の産業廃棄物最終処分量は7.8千トンで2000年度比88.5%の削減となり、すでに目標を達成しています。引き続き2020年においても目標を達成するよう取り組みを継続していきます。

\*1: 政府目標 (2020年度の産業廃棄物最終処分量を2000年度比70%削減)より厳しく設定

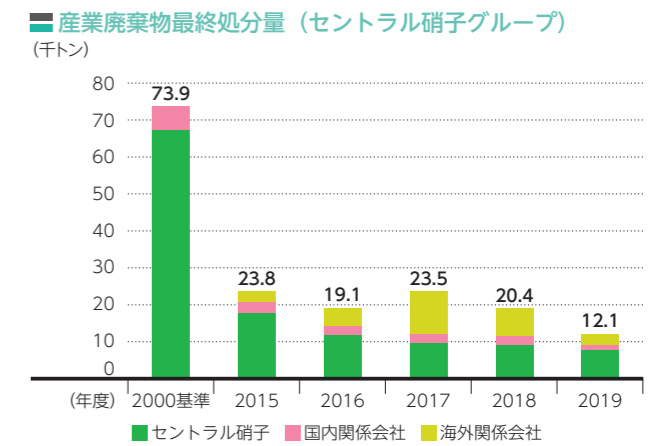


●セントラル硝子グループ:

国内および海外の関係会社においても、産業廃棄物の削減に取り組んでいます。

その結果、2019年度の国内関係会社の産業廃棄物最終処分量は、2015年度より継続的に減少、海外関係会社の産業廃棄物最終処分量は、2017年度に定期修繕により増加しましたが、2018年度以降は減少、セントラル硝子グループ全体の産業廃棄物最終処分量は2年連続で減少となりました。

今後も、国内および海外関係会社を含め、産業廃棄物最終処分量の削減に向けた取り組みを継続していきます。



大気汚染物質・水質汚濁物質の排出状況

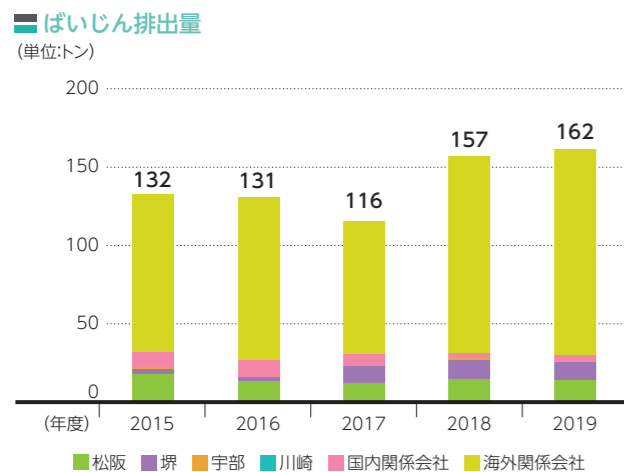
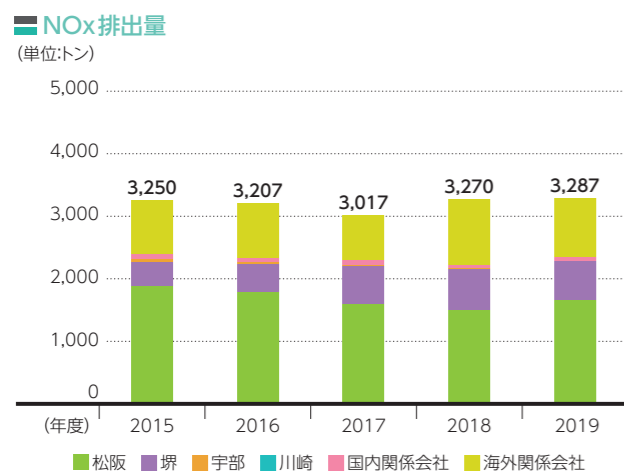
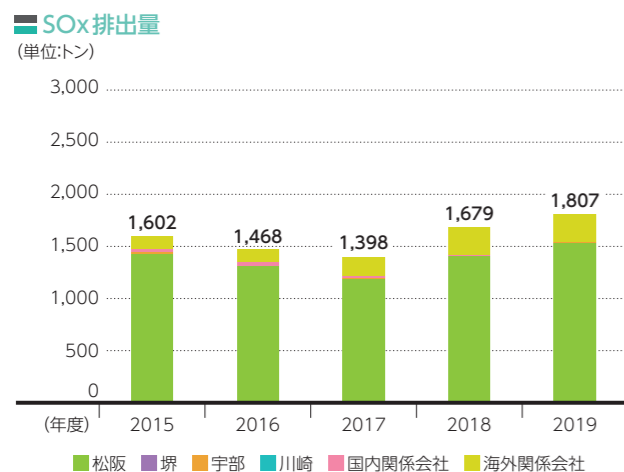
セントラル硝子グループでは、それぞれ立地する地域の空気、水質などの排出基準を遵守して工場操業を行っています。大気汚染物質や水質汚濁物質の排出削減は、地球環境と人々の健康・安全に配慮する上で重要な課題であり、今後も適正管理を継続していきます。

\*以下のグラフに関しては、過去に集計対象としていなかった事業所についても、遡って集計対象に追加したため、過去のCSR報告書での報告値と異なっております。

レスポンス・ケア活動の推進

●大気汚染物質の排出状況

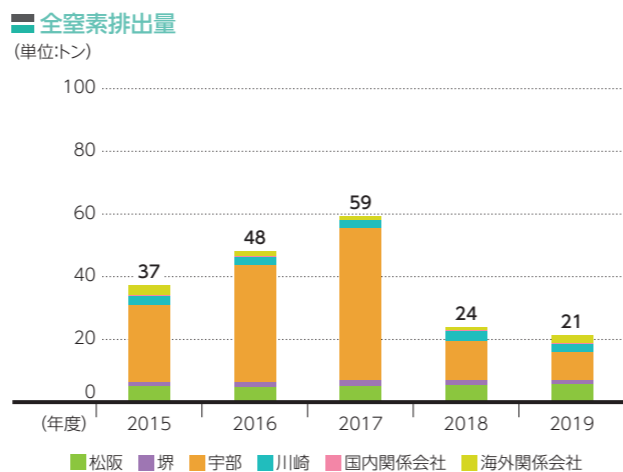
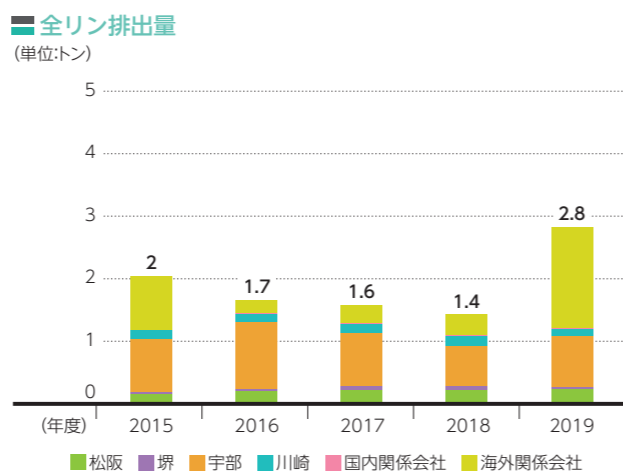
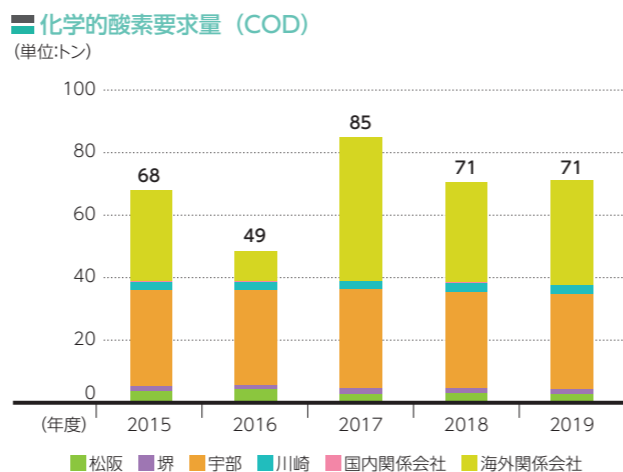
大気汚染物質管理項目のうち、硫黄酸化物 (SOx)、窒素酸化物 (NOx) およびばいじんについて排出量推移を示します。



※海外関係会社のデータは各地域の基準で集計しているため、参考として表しています。

●水質汚濁物質の排出状況

水質汚濁物質管理項目のうち、化学的酸素要求量 (COD)、全リンおよび全窒素について排出量推移を示します。



業務用空調機器・冷凍機からのフロン類漏えい量削減

セントラル硝子は、フロン排出抑制法 (2015年施行) に基づき、業務用空調機器・冷凍機の点検等、冷媒の適正管理により機器使用時のフロン類漏えいの削減に努めています。

2019年度は、各事業所で合計2,703台の簡易点検および定期点検を実施した結果、2018年度の漏えい量から減少し、事業者合計で503t-CO<sub>2</sub>の漏えい量となりました。

今後も、法令に基づく点検の際に、漏えい箇所の特定および補修、設備管理、冷媒量管理などを行い、フロン類漏えい量の削減に努めていきます。

保安防災の推進

セントラル硝子の工場は、行政からの環境・保安防災に関する指導のもと、設備災害ゼロを目指し、万全を期した保安防災体制を整備しています。工場内で火災や漏えい事故などが発生した場合には、異常現象として消防や行政への報告を行います。

また、(一社)日本化学工業協会がすすめる「保安事故防止ガイドライン」をもとにした各工場による活動や、職務に精通した熟練技能伝承者により若年者へ技術、ノウハウ伝承を行い、事故、災害発生の未然防止に努めています。

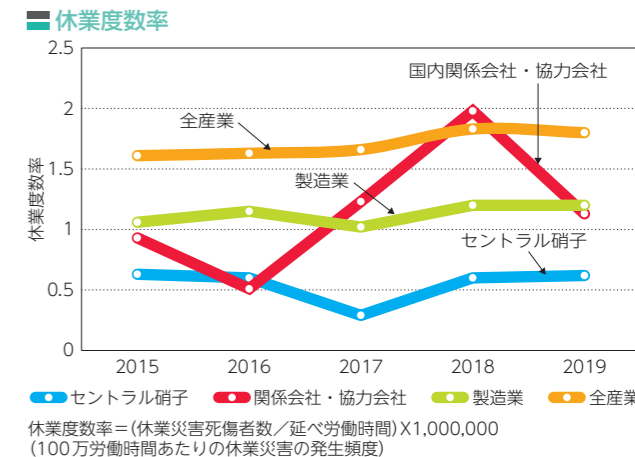
企業活動において、安全は最優先であり、工場での事故防止は企業活動の土台です。引き続き、保安防災を推進し、事故や災害が起こらない工場を目指します。

労働安全衛生の推進

セントラル硝子グループでは、安全年度ごとに「安全衛生管理方針」「重点実施項目」を掲げ、各事業所で安全衛生活動を行っています。(2019年の安全衛生管理方針、重点実施項目は、p16に掲載)。

2019年のセントラル硝子および国内関係会社、協力会社の労働災害について、休業度数率は、セントラル硝子は製造業全体の約1/2で推移、国内関係会社・協力会社は一昨年 (2017年) と同等で製造業全体と同等となりました。

また、労働災害発生件数は、セントラル硝子および国内関係会社、協力会社の合計で、休業災害9件、不労災害31件の計40件でした。



これら2019年の状況を踏まえ、2020年労働安全活動の重点実施項目を設定しました。

2020年 労働安全活動 重点実施項目

- 労働災害の撲滅に向け、現場での日常的な安全衛生活動の活性化
1. 安全意識の高揚: 一人ひとりが、常に安全意識をもち行動する
  2. リスクアセスメントの徹底: 作業方法や機械設備、作業環境の安全レベルを上げる
  3. 繰り返しの安全活動: 決められたことを確実に実施する職場づくり
  4. 荷役作業において安全行動の徹底
  5. 熱中症予防対策の実施と症状が出た場合の救急措置の徹底

引き続き、より一層の労働災害発生防止に向け、安全活動、安全教育、繰り返しの注意喚起などを行い、労働安全衛生の推進に努めていきます。

物流安全の推進

セントラル硝子および国内関係会社は、化学物質輸送時の事故防止と事故発生時の被害拡大防止のため、従業員および輸送を委託している協力事業者に対して、定期的な指導や教育を実施しています。

また、「物流安全管理指針」を定め、その指針に沿った「イエローカード作成管理要領」にて、緊急連絡カード (イエローカード) を作成しています。緊急連絡カード (イエローカード) は、高圧ガスや毒劇物などの輸送の際に運転手に携行させることが法的義務となっていますが、法的義務のない化学物質についても作成し、運転手に携行させています。

2019年度は、化学物質輸送の管理をより適切にするために、「物流安全管理指針」および「イエローカード作成管理要領」の見直しを4月に行いました。また、こ

レスポンス・ケア活動の推進

これらの運用状況の確認を2020年3月に行い、問題なく運用できていることも確認しています。

引き続き、物流安全の向上に努めていきます。

化学品・製品安全の推進

化学物質管理

セントラル硝子および国内関係会社では、化学物質排出把握管理促進法およびPRTR<sup>\*1</sup>制度に基づき、PRTRデータの調査・集計・報告を行い、化学物質の環境への排出量の削減に努めています。

セントラル硝子および国内関係会社の2019年度のPRTR届出物質の総数は、取扱い品目や生産量の増加により、前年度より5物質増加し、60物質でした（セントラル硝子各工場の状況は、P32~35の「各工場の取り組み」に掲載）。

また、労働安全衛生法、毒物および劇物取締法、高圧ガス保安法などの法規制について引き続き遵守し、労働者の安全と健康の確保のための化学物質管理を一層充実させています。

海外の関係会社についても、現地の法規と取り扱う化学物質の把握に努め、海外も含めたグローバルな視点での化学物質管理を推進しています。

引き続き、化学物質の適切な管理を行ってまいります。

\*1 PRTR…Pollutant Release and Transfer Register

アスベスト管理

セントラル硝子および国内関係会社では、建屋および生産設備の一部に、アスベスト含有部材が使用されています。そのため、当部材が使用されている対象箇所を特定し、大気汚染防止法、労働安全衛生法、廃棄物処理法などの法規制を遵守、適切に管理し、撤去時には適切に処分を行っています。

この対応を確実にするために、セントラル硝子および国内関係会社でのアスベストの使用・保管・処分状況の調査を年1回行い、環境安全現地監査の機会にアスベストの使用・保管の状況などを現地確認しています。

2020年度に予定されているアスベスト管理に関する法改正についても遵守し、今後も適切な管理を行ってまいります。

PCB機器管理

セントラル硝子および国内関係会社では、PCB（ポリ

塩化ビフェニル）を含むトランス、安定器、コンデンサなどに対し、PCB特別措置法、廃棄物処理法などの法規制を遵守し、厳重な管理のもとで、定められた処分期限に向けて処分を行っています。

この対応を確実にするために、セントラル硝子および国内関係会社でのPCB機器の保有・処分状況の調査を四半期ごとに行い、環境安全現地監査の機会にその管理状況などを現地確認しています。

2019年度は、前年度に続き、照明器具の安定器など、処分期限が迫っている高濃度PCB機器の処分を優先的に進めました。また、残る高濃度PCB機器、低濃度PCB機器についてもそれぞれの処分期限内の処分計画を策定しました。

引き続き、法令を遵守し、計画的な処分に向けて適切な管理を行ってまいります。

SDS・GHSラベル対応

セントラル硝子グループでは、GHS<sup>\*1</sup>に従ったSDS<sup>\*2</sup>やGHSラベル<sup>\*3</sup>による情報提供を実施しています。化学物質などが取り扱われる際には、SDSやGHSラベルに記載された情報に基づいて、リスク軽減のために必要な措置を講じることができ、安全や環境を守ることにつながっています。

2019年度は、SDSとGHSラベルの作成方法等に関するJIS Z 7252、JIS Z 7253が2019年5月に改正されたことを受け、セントラル硝子および国内関係会社の関係部署（営業部門、製造部門、研究部門）に対しSDS・GHSラベル作成方法の教育を行いました。また、化学物質を取り扱う従業員に対しては、製品や原材料などのSDS・GHSラベルを周知し、適切な取り扱いの徹底に努めています。SDS・GHSラベルともに、複数部署による相互確認後の発行承認により、労働安全衛生法、化学物質排出把握管理促進法、毒物および劇物取締法に対する確実な対応を行っています。

今後も、SDSやGHSラベルによる適切な情報提供を継続してまいります。

\*1 GHS [Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals]  
…化学品の分類および表示に関する世界調和システム  
\*2 SDS [Safety Data Sheet 安全データシート]  
…化学物質などについての危険有害性、および環境に関する情報を記載したデータシート  
\*3 GHSラベル  
…GHSに基づく危険有害性区分に応じた絵表示等を記載したもので、化学品の容器に直接印刷、貼付けまたは添付するラベル。

お客さまに安心していただける製品とサービスのために

セントラル硝子グループは、ものづくりを通じて、真に豊かな社会の実現に貢献し続けます。特に、お客さまの満足を第一に考えた品質活動を行ってまいります。法令・規制の遵守はもとより、お客さまの評価を真摯に受け止め、お客さまに愛され、安心してご使用いただける製品とサービスの提供に努めています。

品質マネジメント

行動規範第二条と品質ガイドライン

品質コンプライアンスをより強固とするため、次の見直しを実施しました。

- ・行動規範に品質に関する条項を追加  
セントラル硝子グループの企業理念に基づく行動規範に第二条「品質と安全性を最優先し、お客様のニーズ充足を目指し続けます」を追加しました。
- ・品質ガイドラインの制定  
「品質基本方針」を全面的に見直し、新たに品質ガイドラインを制定しました。品質ガイドラインは、コンプライアンスの重要な視点となる「予防」、「発見」、「対応」の枠組みから構成されています。

品質マネジメント体制

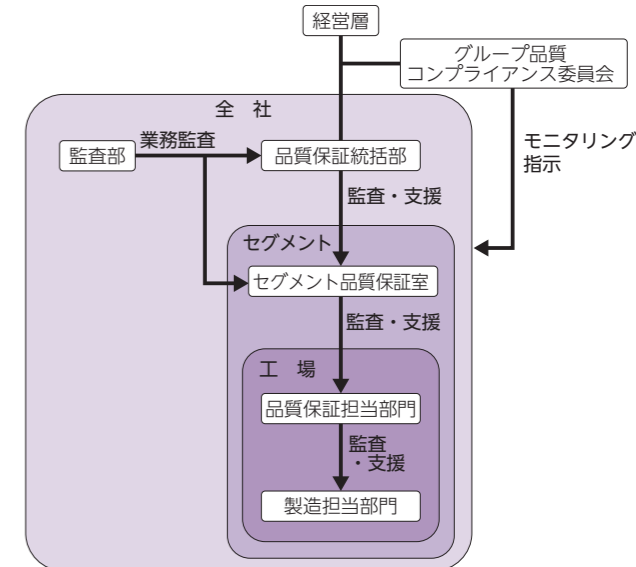
品質マネジメント体制を強化するため、次の改善を実施しました。

- ・グループ品質コンプライアンス委員会の設置

品質ガイドライン

項目	内容
クオリティカルチャー	法令・お客様の要求事項・社会的要請を遵守し、高品質・安全な製品を提供し続けます。
継続的向上・改善	製品の品質と安全性のたゆまぬ向上を目指し、全社一丸となり、委託先を含むサプライチェーン全体での研鑽・改善を重ねます。
予防	方針・手続き 時宜にかなったルールの変更を行い、ルールを遵守します。
体制整備	品質管理部門・品質保証部門がそれぞれの機能を十分に発揮できるよう独立性を確保します。
人材・リソース	品質目標の達成に必要な人材・設備に、適切な投資を行います。
監査強化	各工場/品質保証部門/監査部門による多層監査を実施し、諸問題の早期発見に努めます。
発見 報告強化	品質問題発生時のレポートライン・報告基準を明確化し、迅速な対応に努めます。
対応 問題発生対応	品質問題発生時には、真因分析を適切に行い再発防止に努めるとともに、情報開示等の必要な対応を適時に行います。

品質マネジメント体制



お客さまに安心していただける製品とサービスのために

## 品質監査

セントラル硝子グループは、工場および国内・海外の関係会社に対して品質監査を計画的に実施しています。

2019年度は、年間計画に沿って、工場および関係会社への監査を21件実施しました。監査時に要望した是正または改善は、完了までフォローアップしています。今後、多層監査の考えを取入れ、抜けのない確実な監査を行い、各事業所の品質活動のレベル向上に取り組んでいきます。

## 品質・製品安全の教育

セントラル硝子グループは、網羅的な品質・製品安全の教育を行うため、品質教育体系を策定し、階層別および部門別の教育を計画的に実施しています。これらの教育を通じて培った知識は、品質と安全性を最優先したグループの品質活動に貢献しています。

### 2019年度実施内容

- ・階層別教育：新任管理職研修、新任係長職研修  
内容：製造物責任法、総合的品質管理、品質方針管理に関する教育
- ・部門別教育：営業部門、研究部門および製造部門の対象者  
内容：SDS・ラベル（GHS対応）等の品質・製品安全、品質コンプライアンスに関する教育

また、製品安全対策委員に対して、外部講師による製品安全研修会を開催しました。



2019年度  
新任係長職研修



2019年度製造部門に対する品質・製品安全教育

## 第37回 全社QCサークル大会

セントラル硝子グループは、改善活動の成果発表会として全社QCサークル大会を継続して開催しています。

2019年度に開催した第37回大会では、製造部門から5サークル、国内関係会社から4サークルの出席により、計9サークルにて行いました。

各サークルは、この一年間に取り組んだ成果として、さまざまな視点での改善活動の発表を行い、審査員、聴講者と活発な質疑応答を交わしました。

全社QCサークル大会の機会を通じ、サークル同士がお互いに切磋琢磨することで、企業理念である「ものづくりで築く より良い未来」を目指します。



ザ・ガッツD発表

事業所	所属・部課名	サークル名
松阪工場	硝子製造部製造第二課	たけのこ
三重硝子工業	三重硝子加工第二課	絆
セントラル硝子プラントサービス	CGPS管理本部管理課総務G	KANRIサークル
セントラルガラスファイバー松阪工場	松阪工場 加工課	加工課2係
宇部工場	ファインケミカル製造第一部有機ファイン課ファイン係	どん亀
宇部工場	ファインケミカル製造第一部有機ファイン課弗酸係	Fグループ
川崎工場	機能化学品二課 D班 (FPC)	レジェンド
川崎工場	機能化学品二課 A班 (FPC)	GENERATIONS
セントラル化成	製造課	ザ・ガッツD

発表順

## 取引先への取り組み

お客さまに安心してご使用いただけるセントラル硝子ブランドの製品とサービスの提供に向け、取引先に対しても継続した活動を行っています。

### 外部委託先監査

セントラル硝子は、取引先に対しても品質向上のための継続した活動を行っています。

2019年度は外部委託先のご理解、ご協力のもと、7件の外部委託先監査を実施しました。監査時に要求した是正または改善は、完了までフォローアップしています。

### 2019年度目標と取り組み結果

課題	(P)	(D)	(C)	(A)	
	2019年度目標	2019年度取り組み結果	評価	ガラス事業	化成事業
顧客満足 の向上	<b>コンプライアンスの徹底</b> 「決められたことを守る」「決められたことを守る」を徹底する。不適切な行為が品質に及ぼす影響の重大さを認識し、品質活動の再点検に組織一体となって取り組む。	・品質保証体制を再構築。 ・製品安全研修会の実施。 ・従業員に対する階層別、部門別の品質・製品安全教育の実施。	△	大方針： 新品保証体制の垂直立ち上げと品質保証部門の独立性担保 “品質問題に対して妥協を許さない体制の構築” ・法的、公的、社内規格の順守徹底 ・作業観察の強化 ・ルールの明瞭化、運用の徹底 ・品質部門の権限強化（NOといえる体制） ・適格者の教育・育成 ・監査方法の改善、監査ツールの開発・運用 ・報告ルール、データベースの作成 ・再発防止のための原因分析力の向上	・品質コンプライアンスに対する意識高揚 ・法令要求、契約記載事項の確実な遵守 ・職場に応じたリスク明確化とその対応実行 ・外注先、購買先起因の不具合低減 ・法令改正、契約事項の変更に応じたルール見直し ・QMSの確実運用 ・工場の品質関連組織の改定に応じたルール見直し ・設備の自動化や更新による品質不具合低減検討 ・ヒューマンエラー防止教育及び対策強化 ・多層監査で品質不具合の未然防止推進 ・計画的なサプライヤー監査 ・品質問題報告の新規システムの適切運用 ・品質問題発生時には迅速且つ適切対応
	<b>品質マネジメントの強化と徹底</b> より効果的な品質マネジメントシステムに向けた整備を継続し、品質マネジメントの実効性強化と徹底に取り組む。	・工場、関係会社に対する品質監査等を通じた品質保証体制の維持、改善活動の実施。 ・外部委託先および原料サプライヤーに対する品質監査等を通じた品質保証活動の推進。	○		
	<b>リスク低減と品質パフォーマンス向上</b> 重大な品質問題に対し対策会議を開催し、発生原因・再発防止対策等を確認。事業別、製品種類別のクレーム発生状況を把握することにより、原因究明とともに発生防止・流出防止の対策を実施。	・重大な品質問題に対し対策会議を開催し、発生原因・再発防止対策等を確認。 ・事業別、製品種類別のクレーム発生状況を把握することにより、原因究明とともに発生防止・流出防止の対策を実施。	△		

評価：○…目標を達成 △…概ね達成したが、一部未達成 ×…追加対策が必要

# 「ものづくり」は「ひとづくり」

セントラル硝子は、人々の生活をより豊かにするために、より優れた、より付加価値の高い製品を提供し続けてきた「ものづくり」の企業です。そして企業発展の基本に「ひとづくり」を据え、人材育成・人事制度の充実を図り、個人の実力・能力を最大限に発揮できる環境づくりを目指しています。

## 健康的で活力溢れる企業風土の形成

少子高齢化による労働人口不足の懸念から策定された女性活躍推進法の施行により、女性の管理職登用ならびに職域拡大に向けた行動計画を2016年度より10年間にわたり策定することが義務付けられました。

これを契機にセントラル硝子は、従業員という多様な人材の有効活用、効果的教育、労働環境の見直し、そして生産性の向上を目指すために2016～2017年度の2年間を「第1回女性活躍推進行動計画」として、現状把握と課題分析を実施しました。この振り返りをもとに、2018～2021年度の4年間で、課題となった働き方の見直しに向けての施策を「第2回女性活躍推進行動計画」に反映し、その計画に基づく活動を行うことにより、引き続き、従業員一人ひとりが自分の成長を感じ、長く働ける、働きたいと思える会社を目指します。

### ■女性活躍推進行動計画について

第2回 (2018/4-2022/3)
●女性従業員比率の向上
●スマートDay (定時退社日)、時間外申請、計画休暇の継続実施
●定時時間内で業務を終わらせるワークスタイルへの転換に向けての啓発
●管理職 (ライン職制を含む) の意識改革に向けての啓発
●育児・介護に関する情報発信

### ■2019年度目標と取り組み結果

課題	(P) 2019年度目標	(D) 2019年度取り組み結果	(C) 評価	(A) 2020年度の取り組み
意識改革・制度周知の見直し	女性の積極的採用	・積極的な働きかけにより、新卒女性13名 (17.6%) の採用	○	女性社員比率11%以上にに向けた女性の積極的採用および継続就業可能な環境・制度の整備
	(1) モデル部門の業務棚卸、柔軟な勤務形態のテスト実施を計画	・モデル部門の棚卸方法の検討 ・2020東京オリンピックを機とした、時差出勤のトライアル計画の立案*1	○	時差出勤・在宅勤務等の振り返りを行い、問題把握と問題を踏まえた柔軟な勤務体系を検討
	(2) スマートDay (定時退社日)、時間外申請、計画休暇の継続実施	・第1回行動計画からの継続実施	○	第1回行動計画の継続実施*2
	(3) 管理職 (ライン職制を含む) 向け研修の具体的内容の検討	・管理職向け研修の目的 (目指す管理職像等) の検討	△	管理職向け研修の具体内容の検討
	関係規程、制度および具体的事例の周知強化の継続実施	・社内イントラ、社内報を通じた関係規程、制度の周知と制度利用者の紹介	○	関係規程、制度および具体的事例の周知強化の継続実施

評価：○…目標達成 △…概ね達成したが、一部未達成 ×…追加対策が必要  
 ※1：新型コロナウイルス対策により、柔軟な勤務形態を緊急対策として実施。2020/2より時差出勤、2020/3より在宅勤務を継続中。  
 ※2：新型コロナウイルス対策による時差出勤、在宅勤務の実施中は、スマートDayを一時的に中止。

## ダイバーシティの推進

セントラル硝子では、多様な人材の雇用、育成に取り組み、従業員一人ひとりがいきいきと働ける風土づくりを進めています。

女性活躍推進に加えて、定年退職者の再雇用制度や、障がい者雇用はもちろん、グローバル化に対応するため、外国籍の方の採用に取り組み、異なる価値観や文化での経験を活用しています。また、2019年度末の当社障がい者雇用については、人数は充足したものの雇用率は2.16%となりました。2019年度法定雇用率 (2.2%) は未達成となりましたが、引き続き、障がい者の雇用を継続的に促進し、各々が能力を発揮できるよう、共に働きやすい環境づくりを進めていきます。

### ■雇用状況データ

項目	2017年度	2018年度	2019年度
従業員数 (うち女性)	1,666 名 163 名	1,633 名 170 名	1,631 名 178 名
新卒採用者数 (うち女性)	75 名 11 名	68 名 14 名	74 名 13 名
平均年齢	36.3 歳	36.3 歳	36.4 歳
平均勤続年数	14.8 年	14.7 年	14.9 年
外国籍者数	6 名	10 名	11 名
育児短時間・時間差利用者数	30 名	22 名	33 名
障がい者雇用率	2.41 %	2.14 %	2.16 %
再雇用者数	172 名	165 名	179 名

## ワークライフバランスの推進

育児や介護を担う人を支援するため、法定を上回る制度を構築しております。また、具体的な制度の利用方法を含めたモデルケースの周知を行い、従業員の不安をとりのぞき、安心して両立を図れる体制づくりを行っております。

出産・育児制度は、女性従業員の関連制度の取得はもちろん、男性においても取得が増加しており、育児休業や育児時間差勤務の利用もされています。社内報では男性の制度利用者やその上司にインタビューし、業務の調整方法や取得して良かったことを紹介しました。

今後も制度を積極的に利用してもらうよう、広報や制度見直しに取り組んでいきます。

### ■育児・介護にかかわる制度

出産準備休暇*	妊娠中の通院等のための休暇を月2回。
出産休暇	法定の産前産後休暇。
出生休暇*	出産予定日の前後1か月以内に3日。
育児休業	法定の育児休業。1歳6か月または2歳まで。休業開始日から最大5日間は有給。*
育児休暇*	育児のための休暇を月1日。
子の看護休暇	子の看護等のための休暇を年36日。*
育児短時間勤務*	勤務時間を1日最大2時間短縮。
育児時間差勤務	始業時間を1時間繰り下げ。
介護休業*	通算365日。3回まで分割可。
介護休暇	家族の介護や付き添いのための休暇を年10日。*
介護短時間勤務	勤務時間を1日1時間短縮。

※は法定を上回る制度内容 (制度そのものや、対象期間など)

## メンタルヘルスケア

企業の抱えるメンタルヘルスの課題は、メンタル不調となった当人の健康やキャリアはもちろんのこと、職場の士気や生産性にもダメージを与えかねず、企業にはより繊細で慎重な対応が望まれています。

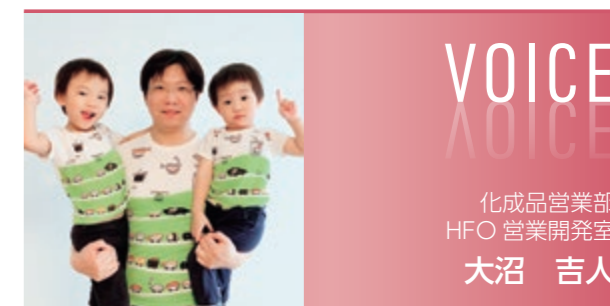
### ■育児支援制度の適用期間 (妊娠～育児期)

	妊娠	6週間	8週間	1年後	1年6ヶ月	2年後	小学校就学前	1年生	小学校修了
出産準備休暇			○						
出産休暇			○						
出生休暇 (3日間)			○						
育児休業			○						
育児短時間勤務			○						
育児時間差勤務			○						
子の看護休暇			○						

※出産休暇 (女性のみ)、出生休暇 (男性のみ) 以外は、男女共通

セントラル硝子は、予防と早期発見を促すため、グループ全社員に対し、毎年ストレスチェックを実施し、ストレス値の高い部署に対しては外部の専門機関による個別ヒアリングを実施し、職場改善提案を行ってまいります。また、高ストレス者に対しては産業医面談や専門機関のカウンセリング受診を促し、環境改善等の検討を行うことを制度化しています。

メンタル疾患による休職者に対しては、休職者本人・かかりつけ医・上司それぞれの対応ポイントを体系化した「職場復帰支援プログラム」を整備し、職場復帰支援を行っています。



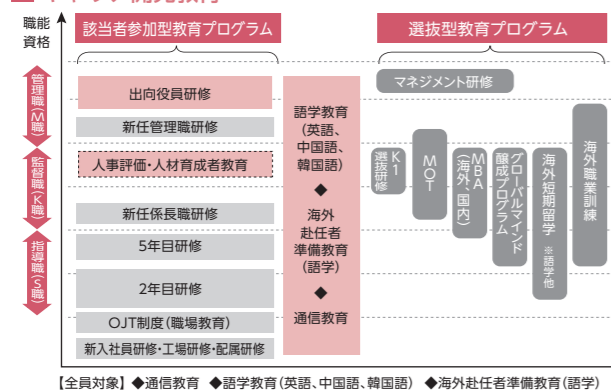
我が家は妻との共働きで、現在は待機児童となった2歳と4歳の息子がおり、2歳から利用可能な認可外保育施設に通っています。次男が1歳になるまでは共稼ぎが続けたかったので、両親に面倒をもらう事にし、1歳から2歳までの間は育児休業制度の利用を考えていました。制度を利用にあたっては、妻との相談の結果、当社の内容が充実していたので、私が利用することにしました。育児休業制度の利用後は、保育施設への送迎のために、育児短時間勤務制度を利用しています。一年間の育児生活を通じて、子どもとの絆を深めることができ、専業主婦ママの大変さを実感することもできました。今では、妻と二人三脚で育児や家事をこなすこともできています。育児制度のお陰でなんとか待機児童を抱える困難を乗り越えられて、非常にありがたく思っています。今後は仕事を通じて、会社に恩返しできるように頑張っていきたいと思っています。

「ものづくり」は「ひとづくり」

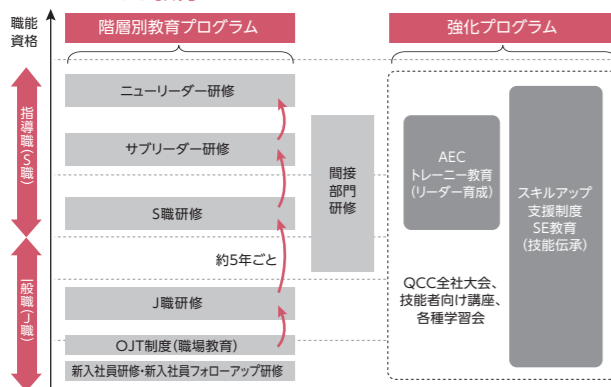
セントラル硝子の教育体系

セントラル硝子の人材教育は、グローバル人材および経営幹部候補の育成を目的とした「キャリア開発教育」と高度な技術・技能の伝承と発展を目的とした「ものづくり教育」の2つの体系から成り立ちます。双方の教育体系とも、年齢や職能資格に応じて該当者全員が受講するプログラム（該当者参加型プログラム/階層別教育プログラム）と業務・能力に応じて選抜された者が受講するプログラム（選抜型教育プログラム/強化プログラム）を実施し、教育機会の充実化を進めています。

■ キャリア開発教育



■ ものづくり教育



語学教育

セントラル硝子は、グローバル人材育成促進の一環として、語学力向上を目的に、英語、中国語、韓国語教育を実施しています。

その中でも、強化プログラムとして実施している「海外要員育成英語講座」と「海外要員育成中国語講座」は、より実践的な語学力の習得を目的に、国内合宿制語学学校への派遣、集中的なオンラインレッスンを実施しています。

2019年度は、「海外要員育成英語講座」を3名、「海



海外要員育成英語講座成果発表会

外要員育成中国語講座」を1名が受講しました。受講者は、比較的短時間で、英語、中国語の語学力がアップしていることが効果測定の結果として得られています。2020年度も継続して実施し、社員の語学力向上をサポートします。

また、海外短期留学プログラムは、外国語による実務能力および国際的感覚を持った従業員を育成するため、海外の語学学校へ3~6か月間派遣しています。

2019年度は派遣者がいませんでしたが、2020年度は1名の派遣を予定しています。



2019年7月より約半年間、海外要員中国語講座を受講しました。まずは静岡県の富士市にあるLanguage Villageへ中国語合宿に行きました。山奥にある自然溢れる研修所で、日本人講師の方からマンツーマンで指導を受けました。朝食から夕食まで講師と時間を共にし、また中国語以外は使えないというルールのもとで会話する必要があるため、最初はかなり苦労いたしました。中国語には、1,600以上の発音があるとされており、抑揚をつけて発音することが重要となるため、毎日ひたすら発音の練習をしました。中国語を学ぶのが初めてだったこともあり、みっちり復習をしなければ次回のレッスンについていけなかったため、授業後も一人で黙々とCDから音声を聞いて発音をして、という練習を繰り返しました。1週間後には、単語の意味は分からなくてもピンイン（中国語のローマ字表記）が何かということは理解できるようになりました。またその後も週1回での中国人講師とのオンラインレッスンや、E-learningを通じての文法や単語学習を継続的に行うことで、徐々にではありますが中国語の基礎を定着化させることができました。

当社において中国は取引を行う上で非常に重要な相手国だと思うので、グローバルで活躍できる人材になって少しでも会社に貢献できたらと考えています。

グローバル感覚の醸成とダイバーシティの理解

セントラル硝子は、従業員のダイバーシティの理解の促進と外国人とのコミュニケーション力の向上を図るため、2012年度より各工場にて海外の大学からインターンの受け入れを実施しています。

2019年度は、米国より2名のインターンを受け入れ、従業員はインターンによる英会話レッスンや職場での交流を通じて、英語でのコミュニケーションに自信をつけるとともに、異なる文化や価値観に対する柔軟性を学びました。今後も継続してダイバーシティおよび異文化の理解とコミュニケーション力の向上に向けた活動を進めていきます。



インターンによる「英会話講義」

コンプライアンス教育

セントラル硝子は、社会的責任を果たすうえでコンプライアンスを必要不可欠なものにとらえ、その重要性を浸透させるための教育を実施しています。



役員による講義

2019年度は、若手中堅層向けの研修において、役員との対話を通じたコンプライアンス教育を実施しました。また当社全社員および関係会社社員向けにe-ラーニングによるコンプライアンス教育を実施しました。2020年度も継続実施し、コンプライアンス意識の向上に努めていきます。

次世代現場リーダーの育成

セントラル硝子は、製造現場の次世代リーダーの育成を目的とし、AECトレーニー選抜教育を実施しています。アクティブ・エキスパート・センター（略称AEC）は各工場に設置された技能伝承・発展に特化した教育機関であり、毎年製造現場から選抜された次世代リーダー候補を「AECトレーニー」として1年間現場から切り離して教育を行います。

トレーニーは、3か月の基礎教育を受けた後、工場から課されたテーマに基づき、実際に製造現場に足を運び、情報収集、分析、ディスカッションなどを繰り返し行うことで、課題の本質を究明し、製造現場の問題解決を図るという活動を実践的に行います。

2019年度のAECトレーニー教育は、各工場から選抜された8名が活動を行いました。2020年度も新たに選抜された8名が活動を継続しており、将来の現場リーダー育成を進めていきます。



「保全スクール」での設備メンテナンス授業

■ 2019年度目標と取り組み結果

課題	(P)	(D)	(C)	(A)
	2019年度計画	取り組み結果	評価	2020年度の取り組み
「キャリア開発教育」によるグローバル人材の育成	語学教育の実施	・英語、中国語、韓国語教育の実施による社員の語学力向上	○	・語学学習支援の仕組みの改善
	経営幹部候補の育成	・MOTプログラムへの研究職派遣 ・選抜された管理職を外部研修派遣	○	・管理職のマネジメント力強化
	グローバル感覚の醸成とダイバーシティの理解	・米国インターンシップ生2名との対話を通じた異文化理解	○	・海外関係会社へのトレーニー派遣
「ものづくり教育」による現場力向上	次世代の現場リーダーの育成	・選抜された8名のトレーニーに対する基礎教育およびテーマ活動を通じた問題解決力向上	○	・AECトレーニー教育を通じた次世代現場リーダー育成の継続実施
	階層別教育プログラムの実施	・階層別教育プログラムの実施による現場力向上 ・主任研修の新規導入による部下マネジメント力向上	○	・階層別教育プログラムの改善と実施

評価：○…目標達成 △…概ね達成したが、一部未達成 ×…追加対策が必要

# 社会とともに成長するために

地域の皆さまのご支援や融和は、企業にとってその存続には必要不可欠です。セントラル硝子グループは、地域の皆さまやお客さまをはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまとよりよい関係を築き、持続可能な社会の実現に向けて、社会とともに成長・向上していきます。

## 秋吉台山焼き延焼止め草刈ボランティア

セントラル硝子労働組合宇部支部では、地域貢献の一環として各種ボランティア活動に積極的に参加をしています。その一つとして、毎年11月に連合山口が主催する『秋吉台山焼き延焼止め草刈ボランティア』を紹介します。

当ボランティアは、『秋吉台山焼き』の事前準備として、延焼を抑えるための『防火帯』づくりを目的とした草刈作業です。過疎・高齢化による人手不足で悩む美祢市の要請に応えたのが始まりで2019年で通算16回目を迎えました。今では連合山口のシンボリックな社会貢献活動として定着しています。

当日は、県下より連合傘下の組合員約550名が集結。まずは20分掛けて山道を歩き作業場所まで移動。到着後は疲労状態でカルスト台地の急斜面を草刈機や鎌を駆使し草を刈っていきます。大変厳しい環境下での作業となりますが、ほかの労働組合の方がたと心を一にして取り組んだ結果、予定時間よりも早く作業を終えることができました。

作業終了時の光景を目にすると満足感・達成感は此の上ないものでした。

当労働組合の方針にも掲げている活動であり、これからも積極的に取り組んでいきます。



秋吉台山焼き延焼止め草刈ボランティア

## 第11回まつさか環境フェア in ベルファーム

2019年9月に松阪農業公園ベルファームにて「第11回まつさか環境フェア in ベルファーム」が開催されました。「つなげよう 未来に向けた エコライフ 2019」をテーマに、松阪市環境パートナーシップ会議の会員と協力団体との協働により、環境活動展示や体験・販売コーナーが設けられ、多数の市民の方が来場されました。松阪工場は、この環境フェアに毎年出展しており、今回は、「環境活動のパネル展示」と「複層ガラスや防曇鏡の体感機」を設置しました。子どもから大人まで多くの方に体験していただき、大盛況でした。

私たちが、健康かつ豊かな環境を維持していくためには、国民、行政、そして事業者が主体となって協働し、各々の役割を活かし連携していかなければなりません。このような中、地球温暖化対策等の環境問題において、建築および自動車等で断熱性能を向上させたガラスの果たす役割は、ますます重要なものになっていくものと考えています。これからも地域に貢献し、環境に良い活動を積極的に努めていきます。



まつさか環境フェア in ベルファーム

## 台風被災者支援

セントラル硝子労働組合川崎支部は、関東地方に甚大な被害をもたらした台風15・19号による被災者支援のために、日本労働組合総連合会（連合）が募集した泥かきのボランティア活動へ参加することとし、11月24日に神奈川県下で特に被害の大きかった相模原地域へ赴きました。

現地入りした私たちが見た光景は、被災から数週間経過しているにもかかわらず、ほぼ手付かずの泥だらけとなった民家でした。軒下や土間、居間に入り込んだ山の土砂は水分を多量に含んで粘土質の固く重い泥になっており、それらをスコップでかき出し集めて土嚢袋へすべて手作業で詰めていくのですが、想像をはるかに上回る重労働で11月下旬というのに作業中は全員汗が止まりませんでした。しかし、泥のかき出し終了後には家主の方から御礼の言葉を頂き、ボランティアを必要とされている方がたの力になれたことに大変な喜びを感じると同時に清々しい気持ちとなりました。

一昨年まで私たち川崎支部と本社支部は合同でフリーマーケットを開催し、売上金を寄付する社会貢献活動を行ってきましたが、今回体を使ったボランティアのやりがいも知ることができました。どちらもエンドレスの活動であり、助け合いの精神のもと、これからも活動していきます。私たち一人ひとりには微力かもしれませんが、今後も助けを必要としている方がたへ少しでも私たちの気持ちを届けていけるような活動を展開していきたいと思っております。



連合神奈川・災害ボランティア派遣

## 港湾道路定期清掃

堺製造所とセントラル硝子プラントサービス（株）堺工場は、政令指定都市である堺市の「堺市まちの美化を推進する条例」に基づいた取り組みとして、近隣企業十数社の人びとと、物資の運搬等に利用する製造所前の港湾道路の定期清掃を年間計画に沿って行っています。

2019年度は、年2回実施とする年間計画に沿って、それぞれ20名の参加により歩道の除草やごみ収集など

の清掃活動を行いました。

また、2019年度は悪天候により開催されなかった大阪湾の海浜清掃についても、行政・近隣企業とともに活動を継続していきます。



港湾道路定期清掃

## 第12回レスポンシブル・ケア 山口西地区地域対話

（一社）日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア（以下「RC」という。）委員会では、地域の皆さまに化学企業の環境保全などへの取り組み状況の理解をより深めるため、「地域対話」を各地で開催しており、宇部工場は山口西地区地域対話に参加しています。

山口西地区地域対話は、山口西部地区で生産活動を行う化学企業7社が参加して、2年に1回の定期で行われており、2019年11月8日にANAクラウンプラザホテル宇部で開催されました。地域住民の皆さま、行政、教育機関、NPO法人、地域企業および会員企業より103名の参加があり盛大な集会となりましたが、宇部工場としてはRC活動の取り組み状況を発表するとともに、有識者をファシリテーターとした意見交換会でもパネリストとして参加し、近隣住民の皆さまと緊急時の対応やアンケート結果の対応について意見交換を行いました。今後とも、地域の皆さまに安心を届けられるよう、積極的に地域対話に参加するとともに安全活動の実施状況や地域住民からの問い合わせについていねいな対応を行ってまいります。



第12回レスポンシブル・ケア 山口西地区地域対話



## 宇部工場



所在地 山口県宇部市大字沖宇部 5253 番地  
 従業員数 653名 (2020年3月31日時点)  
 主要生産品目 フッ素関連製品、その他化学品  
 ISO14001 認証取得 (2000年12月)  
 ISO9001 認証取得 (1997年12月)  
 ISO45001 認証取得 (2020年2月)

## 工場長メッセージ

宇部工場は、瀬戸内海宇部臨海工業地域に位置し1936年に設立され、ソーダ事業から生産を開始して以来、肥料やファインケミカル製品へと事業を展開してきました。現在ではフッ酸を原料とした有機および無機フッ素化合物のファインケミカル製品を主体に製造を行っており、次世代低GWPのノンフロン製品などの環境対応事業にも積極的に取り組んでいます。2020年2月に、労働安全マネジメントシステムであるOHSAS18001からISO45001への移行を完了するとともに安全で健康的な職場環境の構築に努めています。また、工場構内の緑地には桜並木などを整備しており、春には地域の皆さまに美しい桜の姿と共生する自然を楽しんでいただいております。これからも地域の皆さまから「安心」していただけるよう安全で開かれた工場を目指していきます。



宇部工場長  
毛利 勇

## 地域活動

- 工場一斉5Sの日に市道、県道の清掃活動 (1回/月)
- 小野湖の清掃活動 (1回/年)
- 水を守る森林整備活動 (1回/年)
- 常盤公園の清掃活動 (1回/年)
- 秋吉台の草原を守り、育む活動 (1回/年)
- スーパーによる道路清掃 (毎日)
- 宇部東港の清掃活動 (1回/年)
- RC山口西地区地域対話 (1回/2年)
- 宇部地区RC地域対話集会 (1回/2年)

## 事故・災害に備えて

日本に点在するコンビナート地区では、取扱われる高圧ガスや危険物の量は膨大なものとなっており、国民の安全と安心の確保のために、コンビナート地区における保安の確保は必須です。

近年コンビナートでの事故が多発、高止まりしている傾向があることから、日頃から保安防災能力を高め、トラブルの未然防止を図っています。2019年11月25日に、ファインケミカル製造第二部の構内にてフッ酸が漏洩したとの想定で工場総合防災訓練を実施して、宇部・山陽小野田消防局と工場防災隊の総計170名が連携して防災活動を行うことで、緊急時における対応を確認しました。その他、休日・夜間の緊急時防災体制を円滑に構築する取り組みとして、夜間召集訓練を実施し防災管理者(工場長)や副防災管理者(各ライン長)による、緊急時の

事故災害の対応状況についても確認を行っています。

今後もさらなる保安管理の強化を図りながら、近隣住民の皆さまが安心できる安全な工場を目指し、従業員・協力事業所が一丸となって保安確保に努めていきます。



総合防災訓練

## PRTR

政令指定 番号	物質名称	排出量			排出量 前年対比	移動量
		大気	水域	土壌		
16	2,2'-アゾビスイソプロピロニトリル	0	0	0	→	0
33	石綿	0	0	0	→	38,000
41	3'-イソプロポキシ-2-トリフルオロメチルベンズアニリド (別名フルトラニル)	0	0	0	→	0
71	塩化第二鉄	0	0	0	→	0
80	キシレン	890	0	0	↘	4.3
81	キノリン	0	0	0	→	0
94	クロロエチレン (別名塩化ビニル)	0	0	0	→	0
149	四塩化炭素	0	0	0	↘	7,900
186	ジクロロメタン	1,500	0	0	↘	18,000
213	N, N-ジメチルアセトアミド	0	0	0	→	90,000
232	N, N-ジメチルホルムアミド	19	0	0	→	1.3
243	ダイオキシン類 (単位: mg・TEQ/年)	5.7	0.063	0	↘	0
281	トリクロロエチレン	9,400	0	0	↘	0
300	トルエン	570	0	0	↘	7,700
349	フェノール	120	210	0	↘	0
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	660	0	0	↘	340
400	ベンゼン	310	0	0	↘	1,100
411	ホルムアルデヒド	0	0	0	→	0
438	メチルナフタレン	41	0	0	↘	0

第1種指定化学物質の取引量が年間1,000kg (特定第1種指定化学物質は年間500kg) 以上の物質について、排出量・移動量を掲載 (ダイオキシン類を除く)

## 川崎工場



所在地 神奈川県川崎市川崎区浮島町 10番 2号  
 従業員数 210名 (2020年3月31日時点)  
 主要生産品目 無機化学品、有機化学品  
 ISO14001 認証取得 (2007年5月)  
 ISO9001 認証取得 (2001年7月)

## 工場長メッセージ

川崎工場は、次世代低GWPフッ素系発泡剤HFO-1233zd (E)、優れた環境性能と高い洗浄性を両立した次世代フッ素系溶剤HFO-1233zd (Z)、医薬品中間体、フォトレジスト材料、リチウムイオン電池電解液など、ファインケミカル製品を中心に生産しています。

これら製品の製造過程で発生する副生成物については3R (Reduce, Reuse, Recycle) 活動を推進し、引火性廃油の有価物化/リサイクルや汚泥のリサイクルなどに積極的に取り組んでおり、廃棄物の最終処分量を2000年度比で90%以上削減しています。これらの当社の環境活動への取り組みが川崎市に認められ、条例に定める「環境行動事業所」に認定されています。

また川崎という立地から、社員全員が通勤に公共交通機関を使用するなど、生産活動以外の面においても地域の安全と環境に配慮した工場運営に取り組んでいます。

環境、安全への配慮に終わりはありません。川崎工場は今後も継続してこれらに取り組んでいきます。



川崎工場長  
成光 勝

## 地域活動

- 工場周辺道路の定期清掃
- コンビナート近隣工場との環境・安全に関する定期情報交換会
- 浮島地区近隣事業所合同防災訓練への参加
- 交通安全街頭指導への参加 (川崎臨港交通安全協会主催)
- 東京湾環境一斉調査への参加 (工場周辺の東京湾水質分析の実施および報告)
- 交通安全講習会の実施 (川崎臨港警察署来訪)

## 保安防災の取り組み

川崎工場は高圧ガス、危険物製造施設を有しており、石油コンビナート等災害防止法に定められた石油コンビナート等特別防災区域に立地していることから、昼夜を問わない保安防災体制を求められています。

地震発生時の漏洩・火災を織り込んだ防災訓練および津波避難訓練は、緊急時に迅速かつ確に対応できるよう、当工場に常駐している協力業者の方がたも交え毎年実施しています。また自衛防災組織における防災要員教育ではAED、空気呼吸器の取り扱い講習会、異常現象発生時の関係官庁への通報訓練、防災本部設営訓練、放水訓練、消火器訓練などを行い、これらを通じて保安防災意識を高め、緊急時への体制を整えています。

加えて、当工場は川崎市浮島地区の特定事業所で構成される浮島共同防災協議会に加盟しており、加盟事業所が協力して計画的に防災訓練を行うなど、災害発生時に

は相互援助を行う体制が構築されています。また保安防災に関する情報交換も定期的に行っています。



浮島共同防災協議会 中規模訓練

## PRTR

政令指定 番号	物質名称	排出量			排出量 前年対比	移動量
		大気	水域	土壌		
81	キノリン	0	0	0	→	0
94	クロロエチレン (別名塩化ビニル)	3,400	0.3	0	↘	0
149	四塩化炭素	240	0.6	0	↘	9,000
213	N, N-ジメチルアセトアミド	11	0	0	↘	53,000
243	ダイオキシン類 (単位: mg・TEQ/年)	0.02	0.26	0	↘	0
262	テトラクロロエチレン	0	0.8	0	↘	2,200
280	1, 1, 2-トリクロロエタン	0	7.5	0	↘	1,300
300	トルエン	79	0	0	↘	1,900
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	0	0	0	→	55
392	ノルマル-ヘキサン	0.1	0	0	→	8,000

第1種指定化学物質の取引量が年間1,000kg (特定第1種指定化学物質は年間500kg) 以上の物質について、排出量・移動量を掲載 (ダイオキシン類を除く)

川崎工場は1982年の1, 2-ジクロロエタン漏えい起因する地下水の浄化作業を継続して実施しています。

## 松阪工場



所在地 三重県松阪市大町1521番地2  
 従業員数 224名 (2020年3月31日時点)  
 主要生産品目 自動車用安全ガラス  
 建築用および産業用板ガラス、加工ガラス  
 電子材料用機能ガラス  
 ISO14001認証取得 : 2000年4月  
 ISO9001認証取得 : 2003年11月  
 IATF16949認証取得 : 2018年6月

### 工場長メッセージ

松阪工場は、世界で唯一である連続両面磨き法のデュプレックス設備等による板ガラスならびに自動車用・建築用・産業用の加工ガラスを製造しています。

松阪工場では、多量のエネルギーと資源を費やすため、従来から環境保全活動を活発に行っています。

省エネルギー・省電力およびCO<sub>2</sub>削減のために、ロスの削減、大規模な改修に合わせた省エネルギー機器の導入、操業技術改善を推進しています。

廃棄物については、全国的にも厳しい環境の中、端板ガラスをほぼ全量再利用し、さらにハイレベルな削減活動と有価物(商品)化に取り組み続けています。

「ものづくりで築く より良い未来」をモットーに、一人ひとりが継続的改善で成長を目指し、地域に貢献し、感謝の心を忘れずに、安全で笑顔あふれる工場であるように努めていきます。



松阪工場長  
湯浅 章

### 地域活動

- 三重県「キッズISO14000プログラム」活動への参画
- 三重県産業廃棄物対策推進協議会の「鳥羽市志志島の漂着物清掃」に参加
- 松阪市環境パートナーシップ会議「まつさか環境フェア」へエコガラスの出席
- 松阪市主催「まちなか清掃活動」への参加
- スポーツ少年団等へのグラウンドの無料開放
- 近隣自治会へ臨時駐車場としての社有地無料開放
- 夏祭りへ近隣の方がたを招待
- 三重大学(国際環境教育センター)主催の松名瀬海岸清掃活動への参加
- 松名瀬多気地区労働者福祉協議会の「松名瀬海岸清掃ボランティア活動」への参加(労働組合松阪支部)
- エコキャップ回収(労働組合松阪支部)
- 松阪市「Matsusaka-EMS外部環境監査」審査員として派遣

### 普通救命講習会

2019年7月に松阪工場大会議室にて、松阪地区消防広域組合松阪中消防署による普通救命講習会が開催されました。(内容は、①応急手当の重要性、②心肺蘇生法、③AEDの使用法の3時間のコース)

この講習会では、従業員やその家族の命を守る知識とスキル習得を目的とし、心肺蘇生やAED使用方法、応急手当を学習することができます。

当日は、松阪工場の従業員だけでなく、関係会社、協力事業者も含め約30名が受講しました。まずDVD視聴により救命技能の大切さを学習した後、3グループに分れ、心肺蘇生法の説明、人形を使用した人工呼吸、心臓マッサージの実技訓練、AED使用手順の説明、人形を使用したAEDの実技訓練がありました。本講習会では講師の方に、ていねいにわかりやすく教えていただき、参加者全員が応急手当の重要性や救命技術を習得するとともに救急救命の大切さや人それぞれの命の尊さを再認識することができました。

講習会終了後、受講者に普通救命講習修了証が交付されました。今後も一人でも多くの従業員が救命技能の習得ができるよう、また受講された方は救命技能維持向上のため、定期的に普通救命講習会を開催していきます。



普通救命講習会

### PRTR

(単位: kg/年)

政令指定番号	物質名称	排出量			排出量前年対比	移動量
		大気	水域	土壌		
132	コバルト及びその化合物	0	0	0	→	0
242	セレン及びその化合物	200	0	0	↗	0
305	鉛化合物	0	0	0	→	62
412	マンガン及びその化合物	130	0	0	↗	0
438	メチルナフタレン	20	0	0	↘	0

第1種指定化学物質の取扱量が年間1,000kg(特定第1種指定化学物質は年間500kg)以上の物質について、排出量・移動量を掲載(ダイオキシン類を除く)

松阪工場は、2002年に砒素・鉛を含有した地下水が確認され、2020年3月にフッ素を含有する地下水が確認されたことから、地下水の浄化作業を継続して実施しています。

## 松阪工場堺製造所



所在地 大阪府堺市堺区築港南町6番地  
 従業員数 42名 (2020年3月31日時点)  
 主要生産品目 建築・住宅用板ガラス  
 電子材料用板ガラス、建築用摺りガラス  
 ISO14001認証取得 (1999年12月)  
 ISO9001認証取得 (1999年2月)

### 製造所長メッセージ

堺製造所は、大阪府堺市の中央に位置しており、セントラル硝子のガラス事業発祥の地として、1959年から板ガラスの生産を開始し、1982年には、製造方法を現在のフロート法に変更し、生産を行っています。

ガラス溶解炉は、操業条件を見直し、生産性を改善することによってエネルギー単位の削減を進めるとともに、廃棄物をリサイクルするだけでなく、有価物への転換も進めながら、廃棄物のさらなる削減に努める取り組みを行っています。

「ものづくりで築く より良い未来」をモットーに、ものづくりを通して、地域の皆さまが安心して生活でき、真に豊かな社会の実現に貢献できるよう、環境、安全に配慮した工場であるよう努めていきます。



松阪工場堺製造所長  
谷瀬 伸久

### 地域活動

- フリーマーケットに協力し、売上金を社会福祉活動に寄付
- 堺市の消防協力事業所として、大規模災害時の救助・消火・救護などへの人員派遣対応
- 大阪府清浄会による堺市北港の航行船舶の安全と環境保全事業に協賛
- 堺製造所にて献血活動実施
- 湾岸道路の清掃実施

### 保安防災、事故・災害への備え

堺製造所は、石油コンビナート等災害防止法に指定される堺市および臨海工業地帯の中央に位置しており、行政や地域企業との連携による昼夜を問わない保安防災体制が求められています。

このため、堺・泉北臨海特別防災地区協議会にて構築された災害発生時における相互援助体制をもとに、高圧ガス部門応援要請連絡訓練、消防部門夜間通報連絡訓練、堺・泉北臨海地区総合防災訓練等、協議会に加盟する各社が協力して、年間計画に沿って防災訓練を行っています。

製造所内においては、2019年10月に火災・大規模地震、その他災害による人命の安全、被害の軽減、二次的災害発生の防止などを目的とする総合防災訓練および津波避難訓練を関係会社、協力会社を含めた全部署約100名で実施しました。

今後も保安管理の強化を図り、製造所内で働く全従業員が一丸となって保安防災に努めていきます。



堺製造所総合防災訓練

### PRTR

(単位: kg/年)

政令指定番号	物質名称	排出量			排出量前年対比	移動量
		大気	水域	土壌		
80	キシレン	88	0	0	↗	0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	100	0	0	↗	0

第1種指定化学物質の取扱量が年間1,000kg(特定第1種指定化学物質は年間500kg)以上の物質について、排出量・移動量を掲載(ダイオキシン類を除く)

# セントラル硝子 国際建築 設計競技

セントラル硝子では、1966年より「セントラル硝子国際建築設計競技」を主催しています。審査員には日本の建築において著名な先生方を招き、国内外から建築を志す学生や第一線で活躍されている建築設計者の方々の関心を集めています。最終審査は東京国際フォーラムにて公開で行われ、2019年は応募作品188点（うち海外から67点）の中から最優秀賞が選ばれました。

経済性や合理性の追求と、自然環境の維持や歴史的・伝統的な文化の保持とが同時に求められる現代にあって、このコンペが望ましい社会や環境を考えるきっかけの一つになればと願っています。

## 第54回 テーマ 新しい盛り場を生み出す建築

最優秀賞

ノエル・ピカペール（フランス、フリーランス）

マリオン・ジャモール（フランス、フリーランス）

作品説明

### SAKARI-BUSTERS

盛り場は空間と時間の間隔です。仕事と休憩の間に位置し、日常生活ではありえないことが起きる場所です。時々盛り場は中心部から遠く離れて発生します。

彼らの成長の自発性と人々の豊かさのおかげで彼らは彼らの資質を得ました。

囲われた地区や単機能の都市組織への新しい盛り場の出現を促進したいと考えています。これらの地域の一部を盛り場に変えると、より民主的な都市に予期しない極性が生じる可能性があります。

魅力のない空間と空き地は、盛り場のこの未来を再考するための建築的介入の潜在的な問題を構成します。民間投資を減速させることにより、これらのスペースを慎重に再考することができます。彼らの柔軟性と立場は戦略的です。私たちは「サカリバスターズ」を使って、部分的に新しい盛り場に変身させ、次第に近所を改善していきます。

「サカリバスターズ」は、再利用された素材で作られた簡単に構築可能なマイクロアーキテクチャであり、ハイブリッドの使用を周囲に広げます。彼らは社会的なコンデンサーのプロパティがあります。彼らの強力なアイデンティティと適応性のおかげで、彼らは新しい盛り場の出現、一般的な未来の触媒となっています。



### CSR報告書2020 表紙コンセプト

青空を美しい環境の象徴として引用しました。セントラル硝子の製品イメージが地球と同じ色となり溶け込んでいく様子によって、セントラル硝子の事業全体が美しい自然と融和し、CSR活動と連携を取りながら行われていることを示しています。

## セントラル硝子株式会社

お問い合わせ先：環境安全部

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1（興和一橋ビル）

TEL.03-3259-7359 FAX.03-3259-7394 <http://www.cgco.co.jp/>